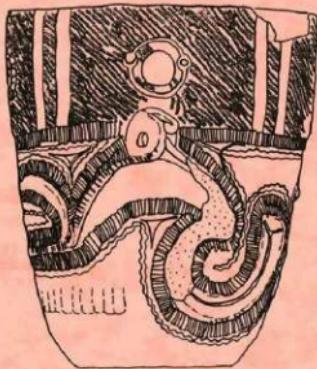


広 畑 遺 跡

—平成12年度広畠遺跡発掘調査及び詳細分布調査報告書—



2001年（平成13年）3月

長野県岡谷市教育委員会

郷土の文化財23

広 畑 遺 跡

—平成12年度広畠遺跡発掘調査及び詳細分布調査報告書—

2001年（平成13年）3月

長野県岡谷市教育委員会

序

このたび「広畠遺跡発掘調査報告書」を刊行することとなりました。

岡谷市内には130個所近くにも及ぶ遺跡がありますが、諏訪湖北側の山間から流れ出す河川により形成された扇状地上には縄文時代の集落が営まれていました。また川岸地区においては、天竜川へ流れ込む大小の沢筋により作り出されるいくつもの扇状地や洪積台地上に、やはり縄文時代の集落が発見されています。

広畠遺跡は大正時代にはすでに遺物が豊富に出土することが知られ、発掘調査の成果が記されており、これまでに、縄文時代中期に栄えたこの遺跡からはしゃがんだ姿を表現したとされる高さ7cmの小さな土偶や住居内に貯蔵されていた黒耀石が発見されるなど、縄文時代中期文化を解明するうえで重要な発見がされております。

今回の詳細分布調査では、高尾山麓にある遺跡の広がりを調べることができました。また、個人住宅等小規模開発工事に伴う発掘調査では、縄文時代中期中葉期における廬への土器捨て場が発見され、20数点にものぼる土器が復原されることにより、土器文様の移り変わりを知る資料として多くの成果を得ることができました。

本書はこうした調査成果を掲載し、報告するものです。今後この報告書が岡谷市の原始生活の様子を復原し、学術文化の向上に活用されることを願っております。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対しましては、深いご理解とご協力を頂きました三沢区関係者、また土地所有者の皆様に厚く御礼申し上げ、本書の上梓をもってご挨拶にかえさせていただきます。

平成13年3月

岡谷市教育委員会

教育長 北澤 和男

例　　言

1. 本書は平成12年度広畠遺跡発掘調査及び詳細分布調査の報告書である。
 2. 事業は国の平成12年度国宝重要文化財等保存整備費補助金及び、県の平成12年度文化財補助金を受けた岡谷市教育委員会が実施した。
 3. 発掘調査は平成12年11月8日から12月18日まで行われた。12月から3月に整理作業を行い報告書の発刊に至る。
- 平成12年7月12日から9月29日まで広畠遺跡詳細分布調査が行われ、住居址の発見等がされたため、今回併せて掲載した。
4. 出土遺物、記録図面、写真などの資料は岡谷市教育委員会が保管している。
 5. 調査及び遺物整理は、佐藤美枝子を中心河原喜重子、山崎めぐみ、腰原綾、笠原香里、林順子、会田進、小坂英文が行った。
 6. 土器の復原は岡谷市土師の会会員がボランティア活動において実施した。
 7. 調査成果の概要をⅠ1にまとめた。報告書作成の規範、執筆分担は調査の概要の中に記した。

土器の分類鑑定は県立茅野高等学校教諭三上徹也氏に、また石器の石材鑑定は塩尻市教育委員会鳥羽嘉彦氏にご教示を頂いた。



長野県内における遺跡の位置図

目 次

| | |
|-------------------------|----|
| 序 | |
| 例 言 | |
| I 発 挖 調 査 | 1 |
| 1. 調査の経過と概要 | 1 |
| (1) 発掘調査に至る経過 | 1 |
| (2) 発掘調査及び出土品整理・報告書作成組織 | 1 |
| (3) 調査の概要 | 1 |
| 2. 遺跡の位置と環境 | 6 |
| 3. 遺構と遺物 | 7 |
| (1) 13号住居址 | 7 |
| (2) 14号住居址 | 9 |
| (3) 15号住居址 | 10 |
| 4. ま と め | 25 |
| II 詳細分布調査 | 30 |
| 1. 詳細分布調査の経過と目的 | 30 |
| 2. 調 査 | 30 |
| 3. ま と め | 31 |
| 付 表 | |
| 1. 遺構一覧表 | |
| 2. 石器属性表 | |
| 報告書抄録 | |

挿 図 目 次

| | | |
|----------------|---------------------------------------|----|
| 長野県内における遺跡の位置図 | | |
| 第1図 | 広畠遺跡（○印）の位置（1：50,000） | 2 |
| 第2図 | 広畠遺跡発掘調査地区図（1：2,500） | 3 |
| 第3図 | 広畠遺跡遺構全体図（1：80） | 5 |
| 第4図 | 広畠遺跡と周辺の遺跡（1：7,000） | 6 |
| 第5図 | 13号住居址実測図（1：50） | 7 |
| 第6図 | 13号住居址出土土器実測図（1：4） | 8 |
| 第7図 | 13号住居址出土石器実測図（1は1：1.5、2・3は1：3） | 8 |
| 第8図 | 14・15号住居址実測図（1：50） | 10 |
| 第9図 | 14号住居址遺物出土状態図（1：50） | 11 |
| 第10図 | 14号住居址出土土器実測図 その1（1：4） | 11 |
| 第11図 | 14号住居址出土土器実測図 その2（1：4） | 12 |
| 第12図 | 14号住居址出土土器実測図 その3（1：4） | 13 |
| 第13図 | 14号住居址出土土器実測図 その4（1：4） | 14 |
| 第14図 | 14号住居址出土土器実測図 その5（1：4） | 15 |
| 第15図 | 14号住居址出土土器実測図 その6（1：4） | 16 |
| 第16図 | 14号住居址出土土器拓影図（1：3） | 17 |
| 第17図 | 14号住居址出土石器実測図 その1（1～4は1：1.5、5～13は1：3） | 18 |
| 第18図 | 14号住居址出土石器実測図 その2（1：3） | 19 |
| 第19図 | 14号住居址出土石器実測図 その3（1：3） | 20 |
| 第20図 | 14号住居址出土石器実測図 その4（1：3） | 21 |
| 第21図 | 15号住居址出土土器実測図（1：4） | 22 |
| 第22図 | 15号住居址出土石器実測図 その1（1・2は1：1.5、3～9は1：3） | 23 |
| 第23図 | 15号住居址出土土器実測図 その2（10は1：6、11は1：3） | 24 |
| 第24図 | 15号住居址出土土器拓影図（1：3） | 24 |
| 第25図 | 14号住居址土器出土位置図（1：40） | 27 |
| 第26図 | 14号住居址出土土器の分類 | 29 |
| 第27図 | E-1, 7P平・断面図（1：50） | 31 |
| 第28図 | 平成12年度トレンチ土層セクション図（1：50） | 32 |
| 第29図 | 11・12号住居址実測図（1：50） | 33 |
| 第30図 | 11・12号住居址出土土器実測図（1：4） | 34 |
| 第31図 | 11・12号住居址出土石器実測図（1：3） | 34 |
| 第32図 | 広畠遺跡トレンチの位置と遺構分布図、遺物が散布する範囲（1：1,800） | 35 |

I 発掘調査

1. 調査の経過と概要

(1) 発掘調査に至る経過

平成12年度

- 12年10月10日 広畠遺跡の隣地に居住する原因者より隣接する土地の一部を購入し、住宅の敷地を拡張。一部掘削を行い車庫を設置したい旨の連絡を受ける。
- 12年10月27日 保護協議
- 12年11月8日 発掘調査に着手
- 12年12月1日 文化財保護法第57条2第1項に基づく届出
- 12年12月18日 器材を撤収（発掘作業を終了）
- 12年12月7日 出土品整理を行い、発掘調査報告書作成に着手

(2) 発掘調査及び出土品整理・報告書作成組織

| | | | | |
|-------|---------------|-------------|---------------|-------|
| 事務局 | 北澤 和男（教育長） | 堀向 弘右（教育次長） | 小林 利男（生涯学習課長） | |
| | 会田 進（文化財担当主幹） | 小坂 英文（指導主事） | 樋口 学（事務員） | |
| 調査員 | 佐藤美枝子 | 河原喜重子 | 山崎めぐみ | 腰原 純 |
| 調査補助員 | 笠原 香里 | 林 順子 | | |
| 作業従事者 | 藤森 知広 | 宮沢 光男 | 浜 益弘 | 高橋 公夫 |
| | 桃沢 良三 | 小林 謙一 | 宮坂あさ子 | 清水 弘子 |
| | 丸山ゆき子 | 奥石 雅子 | 笠原 鈴子 | 藤森 芳 |
| | 森本 肖一 | 上原留津子 | 竹村 玲子 | 星野佐智枝 |
| | 小坂 篤史 | 花岡 有輝 | 廣瀬 智史 | 根石ともみ |
| | | | | 大槻さやか |
| 整理協力者 | 三上 徹也 | 鳥羽嘉彦 | | |
| | （土師の会） | 飯田 改 | 門口 民雄 | 塙田 深男 |
| | 山田 幸弘 | 上條 伸一 | 浜 信昭 | 小坂 秀満 |
| | | | | 藤田 香 |

(3) 調査の概要

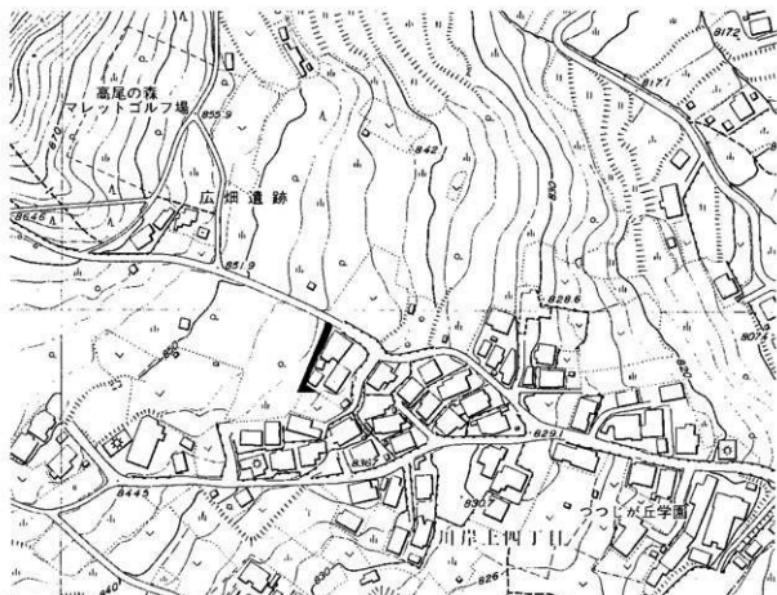
①事業名 個人住宅等小規模開発工事に伴う発掘調査

②発掘調査主体者 畠谷市教育委員会



第1図 広畑遺跡（○印）の位置（1：50,000）

- | | |
|----------|--|
| ③遺跡名 | 広畠遺跡（岡谷市遺跡地図 No.23） |
| ④遺跡の所在地 | 岡谷市川岸（三沢区） |
| ⑤調査の目的 | 個人住宅敷地拡張に伴う当該遺跡の記録保存 |
| ⑥発掘調査期間 | 平成12年11月8日～12月18日 |
| ⑦遺物整理期間 | 平成12年12月7日～平成13年3月19日 |
| ⑧調査面積 | 37m ² |
| ⑨調査方法 | グリッド表記について 調査地が細長のため地形に合わせて、東西方向をアルファベット、南北方向を数字にて設定した。 |
| ⑩発見された遺構 | 堅穴式住居址　縄文時代中期中葉　1棟 縄文時代中期後葉　2棟 |
| ⑪発見された遺物 | 縄文時代　土器（中期中葉～中期後葉） 石器（第1章） |



第2図 広畠遺跡発掘調査地区図 (1:2,500)

第1表 石器一覧表

| 種別 | 器種 | 点数 | 器種 | 点数 |
|-----|-------|----|-------|----|
| 石 器 | 原石 | 15 | 打製石斧 | 40 |
| | 石核 | 7 | 磨製石斧 | 3 |
| | 両極 | 57 | 横刃型石器 | 3 |
| | 石鎌 | 8 | 乳棒状石斧 | 1 |
| | 不定形石器 | 20 | 磨石類 | 31 |
| | 石錐 | 1 | 石皿 | 2 |
| | 石匙 | 3 | 蜂の巣石 | 1 |

(2)資料整理の方法と基準

遺跡No. 23 (岡谷市遺跡地図No.) 広畠遺跡

注記No. 遺跡No.・調査回数・グリッド・遺物取り上げNo.・出土遺構と層位 (ただし報告書中の一覧表では遺跡No.と調査回数を省略している)

グリッド グリッド区名を示すアルファベットと数字

遺構略号 住居址-H

小窓穴-数字P

柱穴 - P 数字

層位 (土層名) 略号

遺構内

遺構外

| | | | |
|---------|------|-------|------|
| 覆土上層 | F上 | 黒色土 | クロ |
| 覆土下層 | F下 | 黒褐色土 | クロカツ |
| 覆土 | F | 暗褐色土 | アン |
| 床上または床直 | 床 | 暗黄褐色土 | アンオウ |
| 炉 | F | 耕作土 | コウ |
| 柱穴内 | P 数字 | 表土 | 表 |
| 埋甕炉 | F P | 搅乱 | カク |
| 焼土 | ヤケ | 廃土 | ハイド |

土器実測図 実測図化は、スリット写真撮影を株式会社シン技術コンサルに依頼した。

土器の説明は図版中に表記した。表の中の()内の数値は推定ないしは残存値である。時期区分については、「梨久保遺跡」(1986年)を参照されたい。縮尺は4分の1にした。

遺構図 各遺構図中の略号は以下のようにした。柱穴内の数値(マイナス表示)は付近の床面から測った深さを示している。

| | |
|------|--------|
| F | 焼土および炉 |
| S | 石 |
| P | 土器 |
| 数字P | 小窓穴 |
| P 数字 | 住居址柱穴 |
| | 焼土 |

遺物実測図と属性表

主な石器は巻末に一覧表を掲示した。石器の石材の略号は以下の通りとした。

| | | | |
|---------|------|---------|------|
| 黒 輝 石 | — ob | 蛇 紋 岩 | — 蛇 |
| チャート | — ch | 硬 砂 岩 | — 硬砂 |
| 安 山 岩 | — 安 | 細 粒 砂 岩 | — 細砂 |
| 緑 色 片 岩 | — 緑片 | ホルンフェルス | — ho |
| 黒 色 片 岩 | — 黒片 | 中 粒 灰 岩 | — 中凝 |
| 頁 岩 | — 頁 | 粗 粒 灰 岩 | — 粗凝 |

石器実測図中のアルファベットによる略号及び付表における磨石類の略号は「樅沢遺跡」(2000年)を参照されたい。

報告書作成作業分担

| | |
|---------------|---|
| 石器・石製品類總体 | 河原喜重子 |
| 造 構 全 般 | 腰原 繾 |
| 縄 文 土 器 | 佐藤美枝子 |
| 縄文土器・石器実測トレース | 山崎めぐみ 宮坂あさ子 小林 謙一 清水 弘子 笠原 香里 林 順子 藤森 香代 上原留津子 竹村 玲子 根石ともみ 大槻さやか 小坂 篤史 花岡 有輝 廣瀬 智史 土田 徹也 |
| 石 材 鑑 定 | 鳥羽 嘉彦 |
| 土 器 鑑 定 | 三上 徹也 |

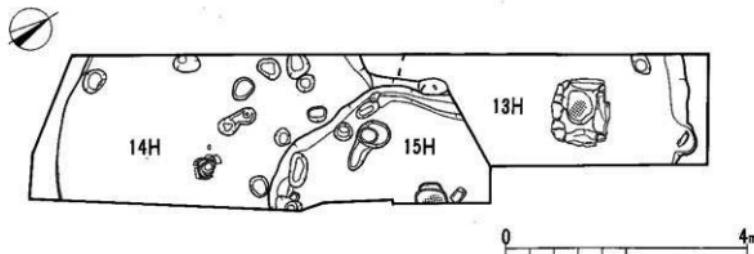
この他に縄文土器拓本は宮坂が取り、図版作成は造構・石器を腰原が、土器は山崎が監督して行った。全体の編集・構成は佐藤がまとめた。

執筆分担

各章の執筆分担は本文中の項末に記した。主な分担、執筆者は次の通り。

| | |
|-------|-----------------------------|
| 小坂 英文 | I - 1 I - 3(1) (3)遺物 |
| 腰原 繾 | I - 2 I - 3(1) (2) (3)造構 II |
| 佐藤美枝子 | I - 3(2)遺物 I - 4 |

(小坂)



第3図 広畠遺跡造構全体図 (1 : 80)

2. 遺跡の位置と環境

岡谷市川岸地区は天竜川の川岸近くまで急な山腹が迫る。急峻な山裾は深くV字状に侵食され、残された丘陵・尾根、大小の扇状地が並ぶ。

広畠遺跡は北西に高尾山がそびえ北風を防ぐ南側に開けた日当たりのよい緩やかな鶴峯丘陵部の上に立地する。ここは三沢区の北側、主要地方道下諏訪・辰野線から山側へ800mほど登った高尾山の麓、標高約860mに位置し、北側には権現様を祀る湧水があり、年間を通じて豊富な水量を誇る。

この遺跡は古くから遺物を豊富に出土することが知られており、「諏訪史一」に大正13年の発掘の成果が記載されている。また昭和21年に諏訪考古学研究所が、同26年には川岸村史編集事業の一環として調査が行われている。近年は昭和47年度に詳細分布調査、昭和62・63、平成2・6年に住宅建設に伴う試掘調査や発掘調査が行われている。
(腰原)



第4図 広畠遺跡と周辺の遺跡 (1 : 7,000)

3. 遺構と遺物

(1) 13号住居址

調査の経過 南側を15住によって切られている住居址である。

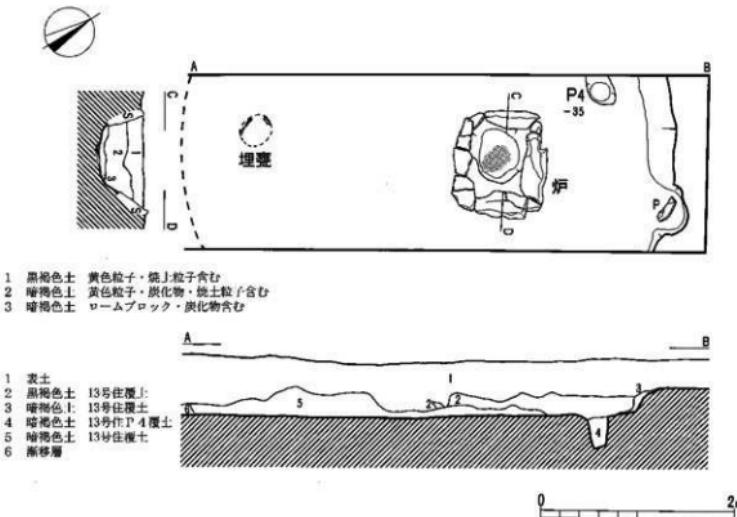
遺構確認において遺物が若干出土しあり、50×30cm大の横長の石が発見されたため、周辺を精査したところ石囲炉を発見し確認された住居址である。覆土は薄いが2層に分層され、上層は黒褐色土、下層は暗褐色土であった。覆土下層と床面との違いが明確ではなかったが炉石の周囲の床レベルを目安に床面を検出した。

遺構 本址はB-7～9グリッドに位置し、平面形は一辺が約5mの隅丸方形の住居址と推定され、主軸方向はN-38°-Eである。壁は北壁の西側で残りがよく27cm、東側では7.2cmを測る。住居の南壁は15住によって壊されているが、調査区西壁の観察から10cmほどの立ち上がりが確認できた。床面は軟弱で不明瞭であるが、炉石の周囲の床面レベルを目安に炭化物の見られなくなった面を床とした。周溝はない。

住居址内の柱穴は1個検出されただけであり、深さは35cmである。

当初から発見されていた石囲炉は110×100cmと大型の掘炬燧状の石囲炉で深さ50cmを測る。炉内の土は3層に分層されるが焼土はほとんど見られず、基底部の焼土もわずかに4cmを測るのみであるが、基底部に見られる地山の石は火熱のために赤色変化している。

15住西壁際に本址の埋甕が発見されたが、東側3分の1が壊されていた。この土器から本址は縄文

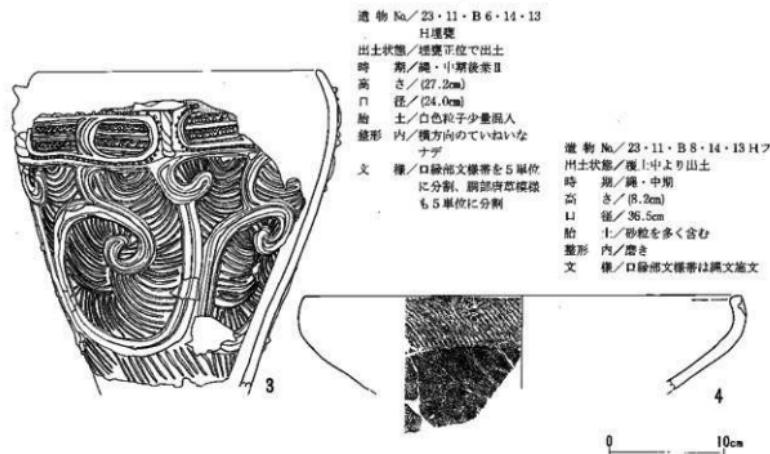


第5図 13号住居址実測図 (1:50)

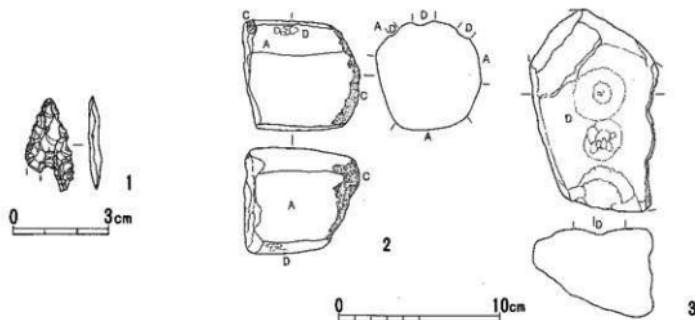
時代中期後葉II期に属する住居と考えられる。

(腰原)

遺物 13住の掘り込みは浅く、覆土が薄いため出土遺物は少ない。土器は石器炉北東側の壁際から4分の1個体ほどの浅鉢が出土している。住居の壁の精査を行い、壁がやや外側に張り出すようになるところから発見された。住居が他のピットと重複しているのか、土層観察を行ったが重複を確認することはできなかった。



第6図 13号住居出土土器実測図 (1:4)



| 回版No. | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重(g) | 備考 |
|-------|-------------|-----|----|----|--------|--------|--------|---------|------------------------|
| 1 | B 8.7.13 HF | 石器 | 石器 | ob | 28.9 | (16.1) | 4.1 | (1.2) | |
| 2 | B 8.3.13 Hフ | 磨石類 | 石器 | 粗凝 | (73.0) | 57.0 | 65.0 | (461.2) | 折れからも使用。各A面と側面に小さく浅い凹み |
| 3 | B 7.3.13 Hフ | 磨石類 | 石器 | 粗凝 | 124.0 | (80.0) | 55.0 | (683.5) | いずれもあばた状の深い凹み |

第7図 13号住居出土石器実測図 (1は1:1.5、2・3は1:3)

本址の埋甕は石匁炉の南西190cmの所にある。埋甕の出土状態は、底を欠いた土器を正位で埋めてあり、約3分の2個体が残り、約3分の1は15住により壊されていた。しかし15住覆土中よりこの埋甕の破片が出土し復原することができた。このことにより、本址と15住の関係は、13住埋設後15住が13住を掘り込んで構築されたが、15住の埋没過程において13住埋甕の隙を掘り込んだ15住の壁が崩落したため、13住埋甕の破片が、土とともに15住の覆土中へ入り込んだものと推定される。

13住床面検出時に15住の平面形を発見することができず、13住との重複部分で15住の一部を調査することができなくなってしまったが、埋甕の接合関係により住居址の重複関係を確認することができた。

(小坂)

(2) 14号住居址

調査の経過 本址は15住によって東側が3分の1ほど壊される。

遺構確認において暗褐色土上層から縄文時代中期中葉の一括土器が出土しあつたため、住居址範囲内の土器集中出土ととらえ住居址覆土ではないかと考えた。これらの土器は床上10~30cmまでに集中しており、暗褐色土の堆積と同時に入り込んだような状況であった。このため当時ごみ捨場として使用され土器が堆積した層と考えられる。

床面までの深さを調べるために、調査区東壁際にサブトレーンチを入れたところ地表から約90cmほどのところに炭化物が出土しなくなり、それほど顕著ではないが若干の堅さをもつ面が確認されたため、これを本址の床面とした。南側の立ち上がりは明確ではないが、北側は地山を掘り込んでいる。調査区内で確認できた住居址の範囲は炉を含む住居址の西側約半分であり、東側は調査区外となる。

遺構 本址はB-4・5グリッドに位置し、平面形は直径5.6mの円形住居と推定される。

壁は北壁で遺構検出面から30cm、南壁ははっきりしないものの調査区南壁の土層観察から6cmの立ち上がりが確認された。周溝はない。床面は顕著な堅さがなく、覆土との違いも不明瞭であったが、遺物や炭化物の出土が見られなくなり黄色が強くなる面を床とした。床は炉址に向かって若干傾斜する。

発見された小穴は11個ある。このうちP7は深さ70cm、P1・P2・P5・P11も深さ30~50cmを測ることから、これらは本址に伴う柱穴と考えられる。

住居址のほぼ中央に炉が発見されている。これは石匁埋甕炉であり、口縁を欠く深鉢形土器を上下に二分し上を外側に、底部のある下を内側に据えつけた後、土器に接するように7個の石で周りを囲っている。このうち東側の石は抜かれてしまったのか確認できなかったが、ここに何らかの力が加えられたのか土器が内側に押されて壊れていた。土器の内部や炉内堆積土に焼土は見られなかったが、炉全体土器の外側の黄色土がわずかに赤色変化し焼き縮まっているため、土器の中で火がたかれていた。この炉全体土器から、本址の時期は縄文時代中期中葉Ⅲ期であると思われる。

(腰原)

遺物 出土した土器は、コンテナ9箇分となり、縄文時代中期中葉期が主体で、若干縄文時代前期末葉～中期初頭の破片が見られる。復原して図示できたものは21点と良好な資料を得ることができた。出土状況を見ると発見された土器のほとんどが、炉を中心に半径2mの範囲、床上10~30cmほどの覆土中に集中している。炉より南東側は、後世の擾乱が床上10cmまで及んでおり、まとまった土器は出土していない。図示した土器は、横につぶれて一括出土しているものが多い。

これらの土器は、三角形・梢円形の区画文、抽象文、パネル文などの文様が施され、文様要素とし

て、押引沈線や波状沈線を使用している。また、指頭圧痕が顕著に見られる。以上のことから藤内I式に比定されるであろう。

石器の主なものは、石鏃4点、石匙2点、打製石斧13点、磨製石斧1点、磨石類18点で、ほかにも乳棒状石斧、横刃型石器が出土している。黒耀石を使用した小形の石器類は非常に少なく、打製石斧、凹石が多いのが特徴である。覆土中の土壤を採取してウォーター・セパレーションを行った結果では、黒耀石チップの量は2,111点であった。

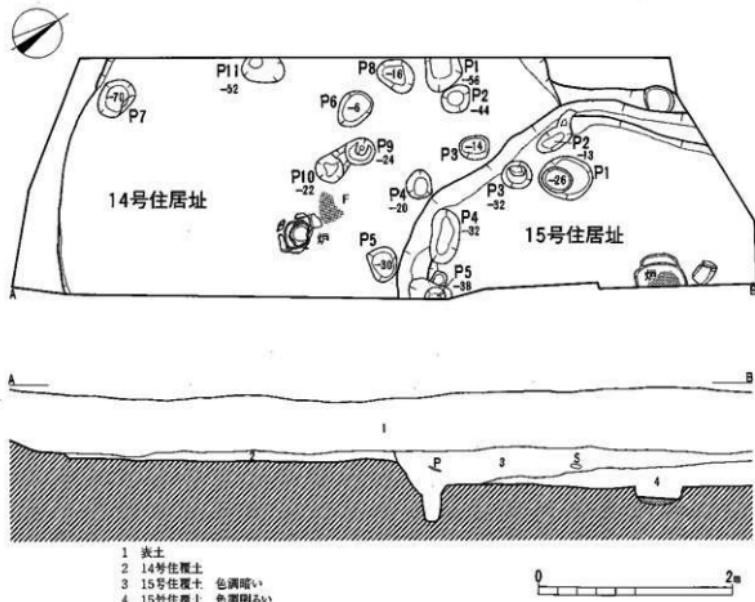
(佐藤)

(3) 15号住居址

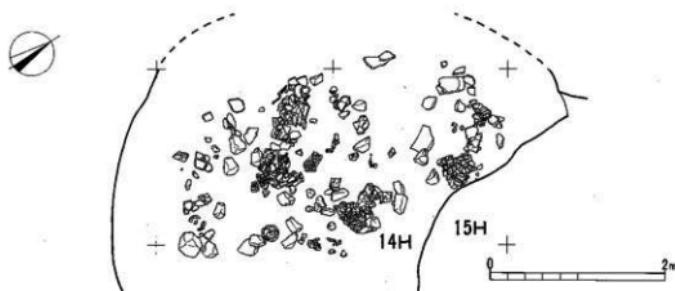
調査の経過 本址は14住の平面形が北側で不整形になり、調査区東壁際に入れたサブトレンチから地山をしっかりと叩き締めた床面が発見されたことにより確認された住居址である。

本址と14住の覆土には明確な違いが確認できず、最終的に14住の床面に達してから本址の平面形が確定された。調査区の土層から2棟の覆土の違いをみると、14住の覆土には炭化物が多く含まれるが、本址には含まれず地山の黄色土が含まれていることが観察された。

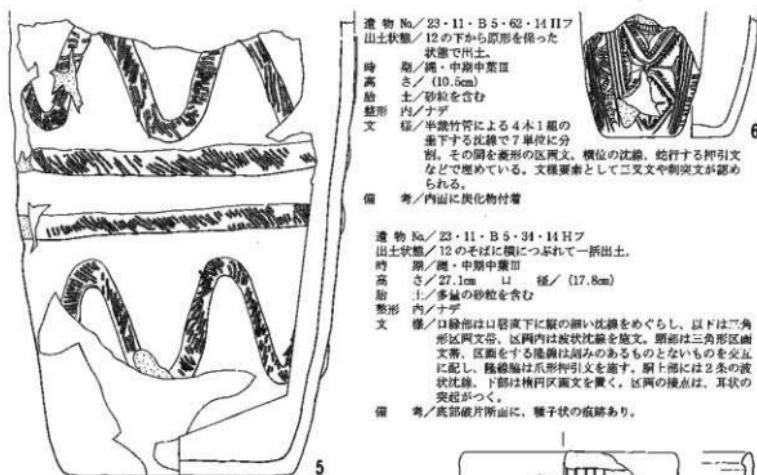
床はローム層まで掘り込んであるため覆土との違いは明確であり、堅く締まった床を構築していた。南壁がはっきりしないため床面を広げると、途中で床面が途切れてしまいここを壁の立ち上がりとした。床面に据え置いたように炉址のすぐ近くから石皿が発見されている。



第8図 14・15号住居址実測図 (1 : 50)

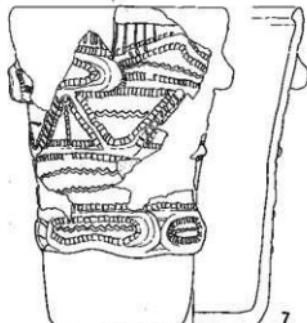


第9図 14号住居址遺物出土状態図 (1:50)



遺物 No./23・11・B 4・102・14 II・FP
出土状態/紹介土器。上下を二分し、底部の両りに上部の破片を覆く状
態で出土。
時 期/縄・中期中葉Ⅲ
高 さ/(38.7cm)
胎 土/白砂子を含む
整 形/内外面ともていねいな磨き
文 横/機走する2本の筋で肩部文様帯を上下に二分し、その上下
ともに太い筋の波状文が施す。筋带上には綾文を施す。
備 考/赤色絵影の痕跡あり。黒色の付着物あり。

0 10cm



第10図 14号住居址出土器実測図 その1 (1:4)



8

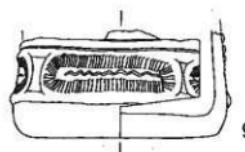
遺物 No./23-11-B 4-70・14日フ
出土状態/21の口縁部破片上にのっている状態で出土。

時 期/縄・中期中葉Ⅲ
高 さ/21.5cm. (22.5cm)
口 径/20.3cm
胎 土/砂粒を含む
形 内/ついでない廢き
文 線/口縁は半梢円形区画+三角形区画文を基本とし、一部で変形している。区画を作る推帶の點跡には耳状突起が付く。区画内に押引で波紋文などの文様を描く。
頸部は波状の押引沈縫が一巡。
肩上部は三角形の区画を配し、縫帶上には刻みを施す。
腹下部は継続の波紋を施す。
腰帶部は全て、爪形の押引文+先の丸い工具による押引が施される。波紋文や区画内の文様も先の丸い工具による押引。

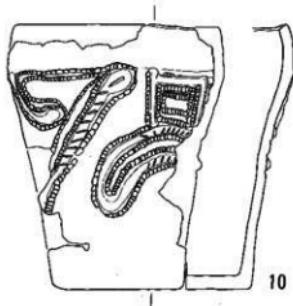
遺物 No./23-11-B 4-
51・14日フ

出土状態/伊の西側、床
上25cmに正位
で出土。

時 期/縄・中期中葉
高 さ/ (8.9cm)
胎 土/白色粒子を多
く含む
形 形/見えていて不
明
文 線/梢円区画文の
区画内はキャ
タピラ文と波
状波線



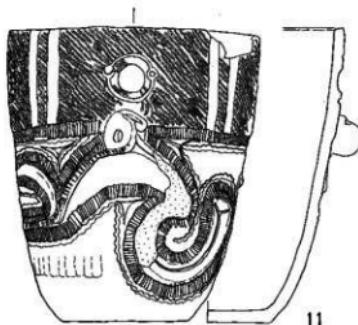
9



10

遺物 No./23-11-B 4-76・14日フ
出土状態/11の東側、床上10cmに横につぶれて一括出土。

時 期/縄・中期中葉Ⅲ
高 さ/22.0cm
口 径/ (16.8cm)
胎 土/砂粒を多く含む
形 内/廢き
文 線/口縁部は無文、腹部文様は2単位のくずれた抽象文
と四角形の区画文。腹帯の筋には先の丸い工具によ
る押引文。



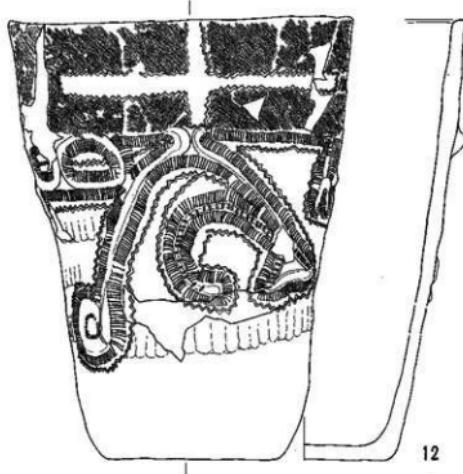
11

遺物 No./23-11-B 4-68・14日フ
出土状態/伊の北西、床上10cmに形を保った状態で出土。

時 期/縄・中期中葉Ⅲ
高 さ/24.4cm
口 径/24.0cm
胎 土/砂粒を多く含む。白色粒子多い。
形 内/廢き
文 線/口縁部はRL綱文を施し、4箇所に円形の崩落と縦に2本1
組の指先で引いたような粗大沈縫の崩落がある。腹部文様部
は2単位で抽象文を描き、口縁部と胸部の筋には、キャタピ
ラ文+波状沈縫を1条造り、2単位の突起が付く。
考 寺修孔あり。胴部破片断面に稜子状の崩落あり。抽象文の貼
り付け部分に黒色の付着物あり。

0 10 cm 備

第11図 14号住居址出土土器実測図 その2 (1:4)



12

遺物 No./ 23・11・B 5・59・14 日フ
出土状態/ 伊の北边上、屏石より 9cm 上
に間につぶれて一括出土。

時 期/ 桐・中期中葉Ⅲ

高 さ/ 39.6cm

口 径/ 29.5cm

胎 土/ 砂粒を多く含む

整 形/ 内／崩き

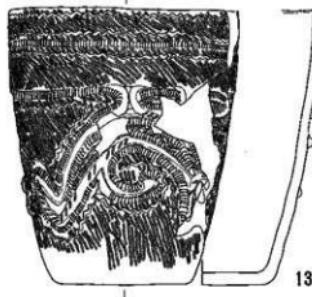
外／指痕・凹痕を残す。

様/ 口縁部は RL 繩文施用後、十字

形に磨消し、波状の沈線でふ
ちどる。縩文は何個所か向き
を変えた施文している。胸部
文縩帶は 2 単位で、袖象文と
区画文を施す。

区画文は、2 意味の梢円区画文

文と、一方は四角形区画文が
4 個並ぶ。陰帯部にはキャタ
ピラ文 + 波状沈線を施す。



13

遺物 No./ 23・11・B 4・53・

14 日フ

出土状態/ 北西側に破片が散

在

時 期/ 桐・中期中葉Ⅲ

高 さ/ 24.0cm

口 径/ 19.8cm

胎 土/ 多量の砂粒を含む。

雲母多い。

整 形/ 内／ナデ

様/ 全面に RL 繩文を

施す。口縁部は、

口縁裏下に 1 条の

波状沈線を造らせ、

開闊をあけて爪形

の押引文+波状沈

線を施す。

胸部文縩は 2 単位

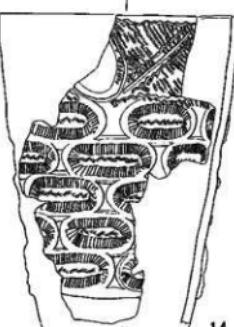
で、袖象文と 2 意

区画文を施す。

袖象文には 3 本指

のようなモーテー

フが見られる。



14

遺物 No./ 23・11・B 5・52・14 IIフ

出土状態/ 14 号住の壁上及び 15 号住の

壁土から破片出土。

時 期/ 桐・中期中葉Ⅲ

高 さ/ (26.7cm)

胎 土/ 細かな白色粒子を多く含む

整 形/ 内／崩き

様/ 口縁部は RL 繩文を施用後、

円形の磨消と前走する波状沈線+

沈线文を施す。

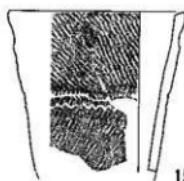
胴部は 5 段の梢円区画文で、区

画の中はキャタピラ文と、ベン

先状の工具による波状押引文。

考/ 内面底部近くにわずかに炭化物

あり。



15

遺物 No./ 23・11・B 4・79・14 Hフ

出土状態/ 仰の上 25cm の覆土中

時 期/ 桐・中期中葉Ⅲ～Ⅳ

高 さ/ (14.0cm)

口 径/ (15.2cm)

胎 土/ 細かな砂粒を含む

整 形/ 内／崩き

様/ 口縁部には RL 繩文、円形の

磨消がある。口縁部と胴部は

二角の押引文+ベン先状工具

で波状に押引した沈線によつ

て区別される。胴部には L R 楊

文が施される。胴部の縩文地

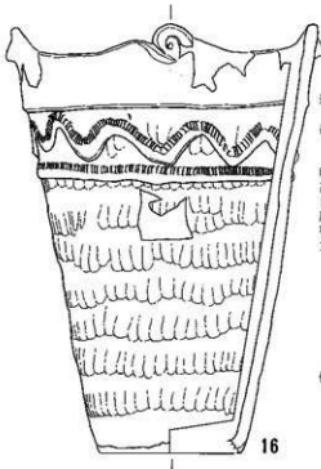
文は粗い。

考/ 内面に似化物付着。

外側にスス

0 10cm

第 12 図 14 号住居址出土土器実測図 その 3 (1 : 4)



遺物 No./23・11・B 5・31
14 Hフ

出土状態／炉の北東、床下10cm
に横につぶれて一括
出土。

時
期／晩・中期中葉Ⅲ
高
さ／34.0cm、36.5cm

口
径／25.6cm

形
態／白色粒子
内／磨き

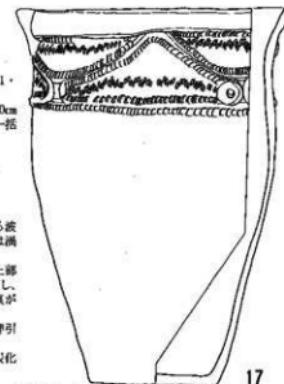
文様／4単位と思われる波
状口縁で、頂部は溝
巻状となる。

口縁は無文。肩上部
は波状隆帯が一巡し、
肩下部は指頃圧痕が
顯著。

隆脊部は爪形の押引
文。

備
考／胸中部位に少量の炭化
物付着

16



遺物 No./23・11・B 4・90・14 Hフ

山口狀態／腹土中に破片が散在

時
期／晩・中期中葉Ⅲ

高
さ／32.5cm

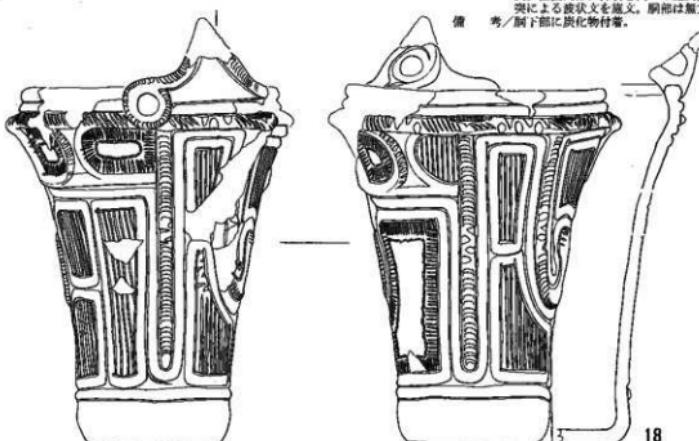
口
径／22.5cm

形
態／上部少量の白色粒子を含む

文
様／口縁部は無文。腹部に半橢円形+三角形
区画文があり、隣接部に斜て爪形の押引
文。区画内には、神羽と同一の鑿文具で削
成による波状文を施す。胸部は無文。

備
考／胸下部に炭化物付着。

17



遺物 No./23・11・B 4・21・14 Hフ

出土状態／炉の南側、床下30cmより横につぶれて出土。

時
期／晩・中期中葉Ⅲ

高
さ／30.3cm、(33.8cm)

口
径／22.7cm

形
態／土・白色粒子を多量に含む

文
様／口縁に1個所把手が付く。文様は2単位で、垂下する垂幕、逆丁字文、2宮状区画
で構成され、間にバネル文を配置。バネル文や2宮状区画文の中に、先の角突った

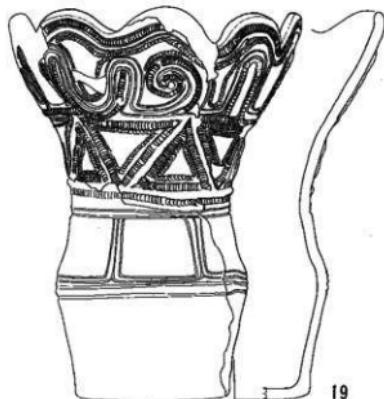
工具で連續刺突をし、その横にベン先状の工具で押引文を施す文様要素が見られる。

備
考／胸下部に赤色胎影の痕跡あり。



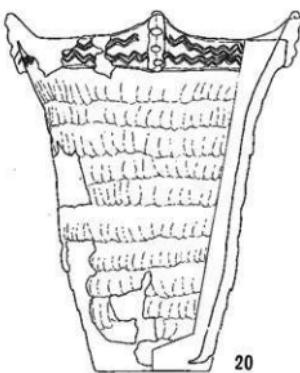
18

第13図 14号住居址出土土器実測図 その4 (1:4)



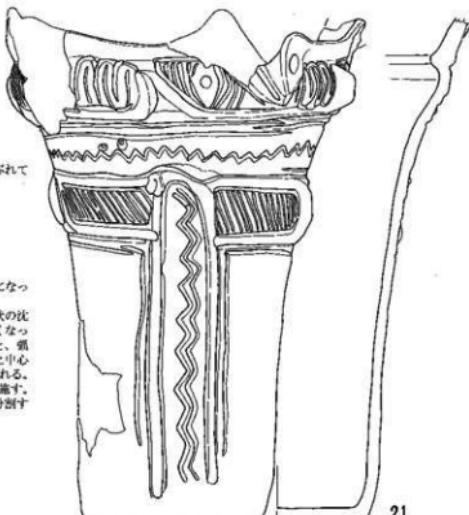
19

遺物 No./23・11・B 4・67・14 日フ
出土状態/北側、床下30cmにつぶれて出土。
時期/晩・中期中葉
高さ/33.8cm
幅/上／細かな形粒、雷母を含む
整形内外／雷母
文様/5单位以上の波状口縁。
△幾何文様部は、半斎竹管による爪形押引文・三角押引文・沈線の組み合せにより、文様を描いている。文様の位置は不明。頭部は三角形区画文を配し、隆帯の脇をV字形の押引文と三角押引文を施している。脚らみをもつ脚部は、上部に比線で四角形の底面を施す。



20

遺物 No./23・11・B 4・67・14 日フ
出土状態/2分の1脚作は、11の化粧例、床下10cmからまとまって出土。残りの破片は散在しており、15号作の覆土からも出土している。
時期/晩・中期中葉Ⅲ
高さ/(27.8cm) (30.1cm)
口径/22.3cm
脚部/口口縁と雷母を少量含む
整形内外／雷母
文様/口縁は4単位の小波状口縁となる。波頂部下には、複数の短波を貼付し、刃刃を入れてある。文様は半斎竹管による波状文が2本横くする。
頭部に指頭圧痕が著しく輪積痕が顕著に見られる。
備考/内面中央に少量の炭化物付着

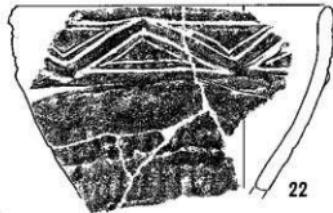


21

遺物 No./23・11・B 4・74・14 日フ
出土状態/かの北西側、床下10cmに横につぶれて一併出土。
時期/晩・中期中葉Ⅲ
高さ/40.0cm、(43.3cm)
口径/28.4cm
脚部/上／白色粒子を含む
整形内外／雷母
文様/口縁部の突起は、舌状と円形が組になつたものが、4單位つく。
△頭部文様は、U字状と逆U字状の状態を重ねて施すことにより、高くなつた部分が波状のようになるものと、弧状比線を向かい合わせで施した中心に網目突をするものの2種で構成される。頭部は横円区画内に、斜行比線を施す。逆U字状垂直文が、横円区画を分割する形で入っている。
備考/補修孔あり、外面上にスズ付着。



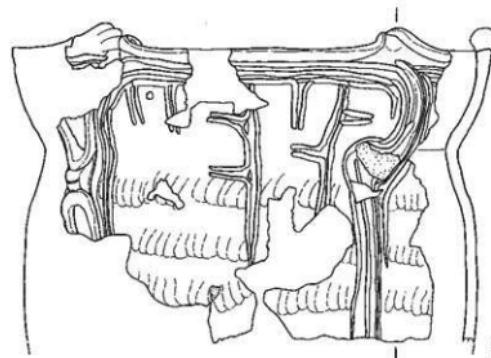
第14図 14号住居址川土器実測図 その5 (1:4)



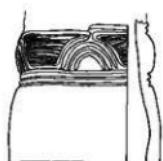
遺物 No./23・11・B 4・57・14 H フ
出土状態／伊の西側、床下 30cmに裏側を上にして出土。
時 期／縄・中期中葉Ⅲ
高 さ／(15.0cm)
口 径／(25.2cm)
胎 土／砂粒を多く含む
整 形 内／ナデ、剥落激しい
範 形 外／指腹圧痕を残す。
文 紋／口縁部は二角形区画文、腹部の脇には、半裁
竹管の背面を使用した様な枕線。
備 考／口縁部の内面荒れている。



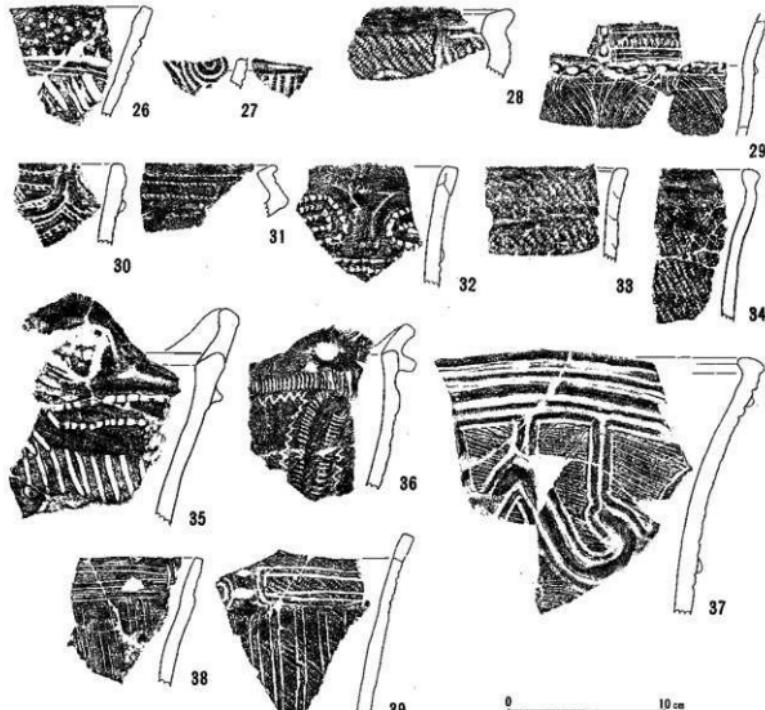
遺物 No./23・11・B 5・30・14 H フ
出土状態／北東の覆土中、床下 20cmに破片が
散在して出土。
時 期／縄・中期中葉
高 さ／(29.0cm)、(31.4cm)
口 径／28.6cm
胎 土／白色粒子を多く含む
整 形 内／崩き
文 紋／口縁には2山1単位の突起がつく。
口縁部は四角形の区画を作り、中
に角押文で波状を排く。区画を作
る脇には刻みがあり、脇に角押
文を施す。底部はR L 繻文。
備 考／口縁部の破片所面に種子状の痕跡
あり。



遺物 No./23・11・B 5・83・14 II フ
出土状態／北東部覆土中
時 期／縄・中期中葉
高 さ／(25.5cm)
口 径／39.9cm
胎 土／砂粒を含む
整 形 内／機方向の壓き
整 形 外／指腹圧痕上を刻いている
文 紋／口縁には突起がつく。
脇下する隆帯で区画し、その中に垂
下する不規則な枕線で文様を施す。
備 考／10 cm

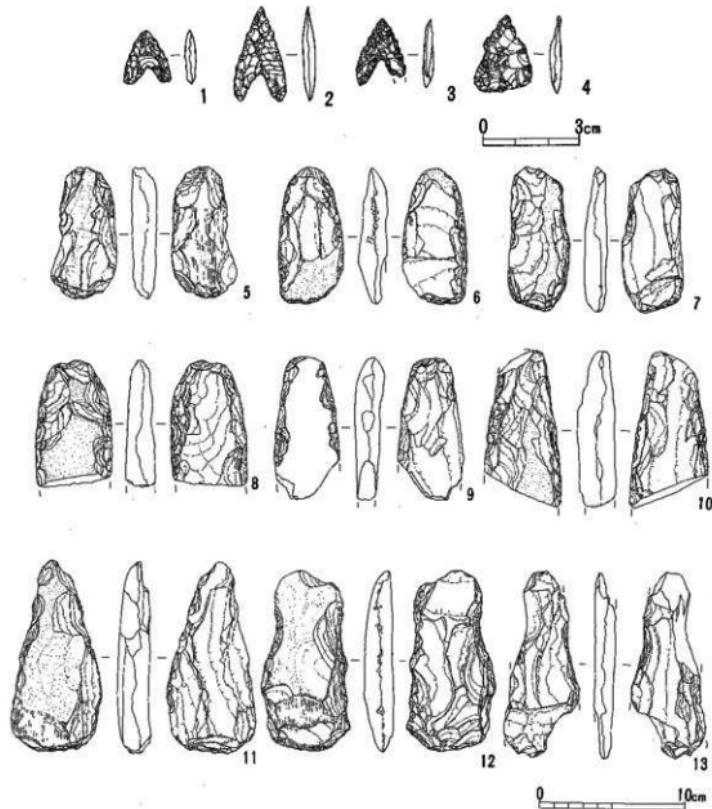


遺物 No./23・11・B 4・40・14 II フ
出土状態／覆土中
時 期／縄・中期中葉
高 さ／(12.1cm)
胎 土／白色粒子を含む
整 形 内／崩き
文 紋／4 単位の区画、区画内は沈線で埋める。
沈線は1区画のみ堅位に施す。
備 考／台付土器の台脚か？



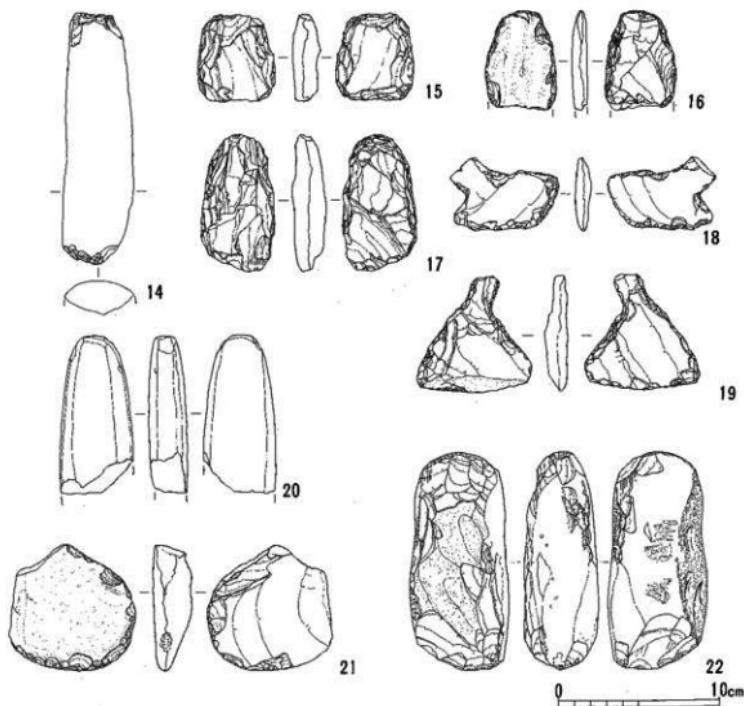
| 図版番号 | 遺物番号 | 器形 | 部位 | 時期 | 文様 | 内面整形 | 胎土 | 備考 |
|------|-------------|----|-----|-------|-------------------------------------|-------|---------|-------------|
| 26 | B5.45.14H フ | 深鉢 | 口縁 | 前期末葉 | 円形の斜矢、横・斜め方向の沈線 | 横方向磨き | 赤色・黒色粒子 | |
| 27 | B5.57.14H フ | — | 頸 | 前期末葉 | 内外面とも繕字浮雕文 | — | 白色粒子 | |
| 28 | B4.10.14H フ | 深鉢 | 口縁 | 中期初頭 | R.L織文の上に沈線 | ナデ | 白色粒子 | |
| 29 | B5.40.14H フ | 深鉢 | 頸～胴 | 中期初頭 | 地文に纏文。押圧痕等で凹面。周面は模様と変化。別は底面で同じ字形で拡大 | 炭化物付着 | 雲母 | |
| 30 | B4.29.14H フ | 深鉢 | 口縁 | 前末～中初 | 新郎沈線 | 磨き | 白色粒子 | |
| 31 | B4.4.14H フ | 浅鉢 | 口縁 | 中期中葉 | 三角押印文で区画 | 磨き | 白色・黒色粒子 | |
| 32 | B5.70.14H フ | 深鉢 | 口縁 | 中期中葉 | 縦文帯の下に格子による区画。角押印による文様 | ナデ | 砂粒多 雲母 | |
| 33 | B5.45.14H フ | 深鉢 | 口縁 | 中期中葉 | 指頭圧痕が残る上に纏文 | 磨き | 砂粒少 | |
| 34 | B5.20.14H フ | 深鉢 | 口～頸 | 中期中葉 | R.L織文 外面、口縁部にスス付着 | 磨き | 白色粒子 | 割れ口断面に炭化物付着 |
| 35 | B5.61.14H フ | 深鉢 | 口～頸 | 中期中葉 | 隆起部に押印。底部に斜行沈線 | 磨き | 雲母多 | |
| 36 | B5.70.14H フ | 深鉢 | 口～頸 | 中期中葉 | 突起をもつ。キャタピラ文+波状沈線。底面上に纏文 | 磨き | 砂粒多 | |
| 37 | B5.19.14H フ | 深鉢 | 口～頸 | 中期中葉 | バネル文 | 磨き | 白色粒子 | |
| 38 | B5.73.14H フ | 深鉢 | 口～頸 | 中期中葉 | 口縁は2本一組の横段沈線。 腹部は斜行の沈線 | 横方向磨き | 白色・赤色粒子 | |
| 39 | B5.70.14H フ | 深鉢 | 口～頸 | 中期中葉 | 地文に纏文。2本一組の沈線 | ナデ | 雲母多 | |

第 16 図 14 号住居址出土土器拓影図 (1 : 3)



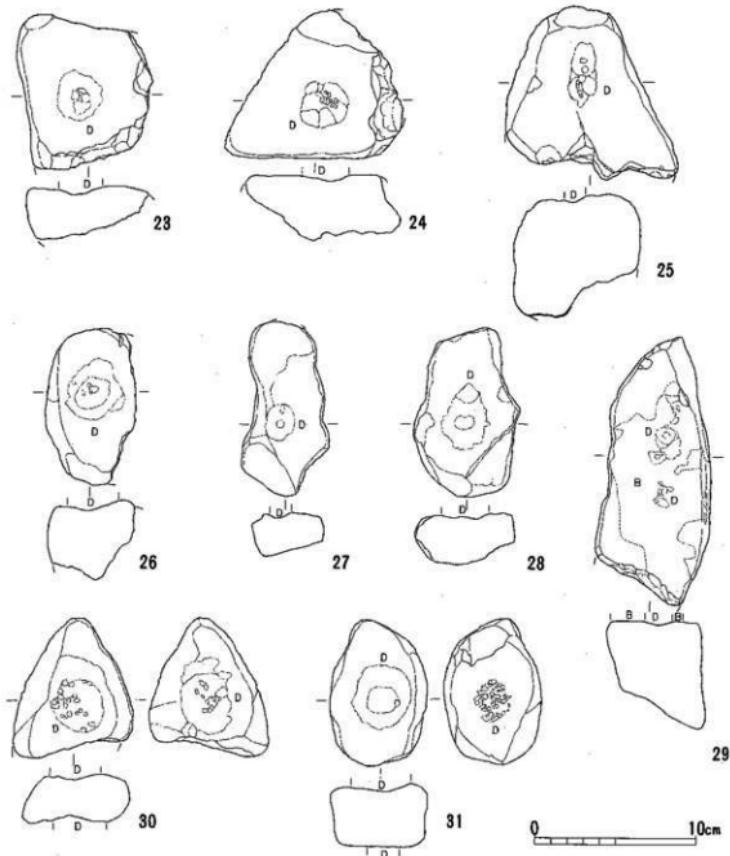
| 図版No. | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(mm) | 幅(mm) | 厚(mm) | 重(g) | 備考 |
|-------|--------------|------|----|---------|--------|-------|---------|---|----|
| 1 | B4.11.14H フ | 石鏨 | ob | 16.5 | 14.6 | 3.1 | (0.6) | | |
| 2 | B6.15.14H フ | 石鏨 | ob | 29.1 | 15.9 | 4.1 | 1.3 | | |
| 3 | C4.8.14H 底底 | 石鏨 | ob | 20.5 | 14.7 | 3.1 | (0.6) | | |
| 4 | B5.77.14H フ | 石鏨 | ob | 23.5 | 17.5 | 3.8 | (1.1) | | |
| 5 | B4.44.14H フ | 打製石斧 | 頁 | 90.0 | 45.0 | 18.0 | 76.1 | 刀部と側縁に使用痕の消耗がわずかに見える。裏面一部磨耗。 | |
| 6 | B5.47.14H フ | 打製石斧 | 頁 | 93.0 | 44.0 | 19.0 | 94.9 | 刃部の裏面に使用による複数わざかに見える。側縁をつぶすような敲打による調整を施す。 | |
| 7 | B1.120.14H フ | 打製石斧 | 頁 | 98.0 | 42.0 | 15.0 | 77.9 | 刃部磨耗。表面には擦痕見える | |
| 8 | B4.42.14H フ | 打製石斧 | 墨片 | (86.0) | 52.5 | 20.0 | (128.0) | 他の石器からの転用か。刃部折れ | |
| 9 | B4.72.14H フ | 打製石斧 | ho | (97.0) | (45.0) | 19.0 | (116.0) | 乳塊状石斧からの転用か。表面広範囲で黒色変化（着色？）わずかに表面まで及ぶ | |
| 10 | B5.16.14H フ | 打製石斧 | 頁 | (107.0) | (53.0) | 26.0 | (164.1) | 側縁敲打による丁寧な調整加工。 | |
| 11 | B5.50.14H フ | 打製石斧 | 頁 | 131.0 | 62.0 | 21.0 | 198.6 | 刃部裏面に擦痕が残り刃先磨耗。側縁剥離と敲打による顎部尖削状に作り出す。 | |
| 12 | B4.83.14H フ | 打製石斧 | 頁 | 124.0 | 59.0 | 20.0 | 190.0 | 表面広く残し側縁敲打によりくびれを作り出す。刃部磨耗。 | |
| 13 | B5.39.14H フ | 打製石斧 | 頁 | (128.0) | (48.0) | 14.0 | (80.3) | 片側縁剥離によりくびれを作り出す | |

第 17 図 14 号住居址出土石器測定図 その 1 (1 ~ 4 は 1 : 1.5, 5 ~ 13 は 1 : 3)



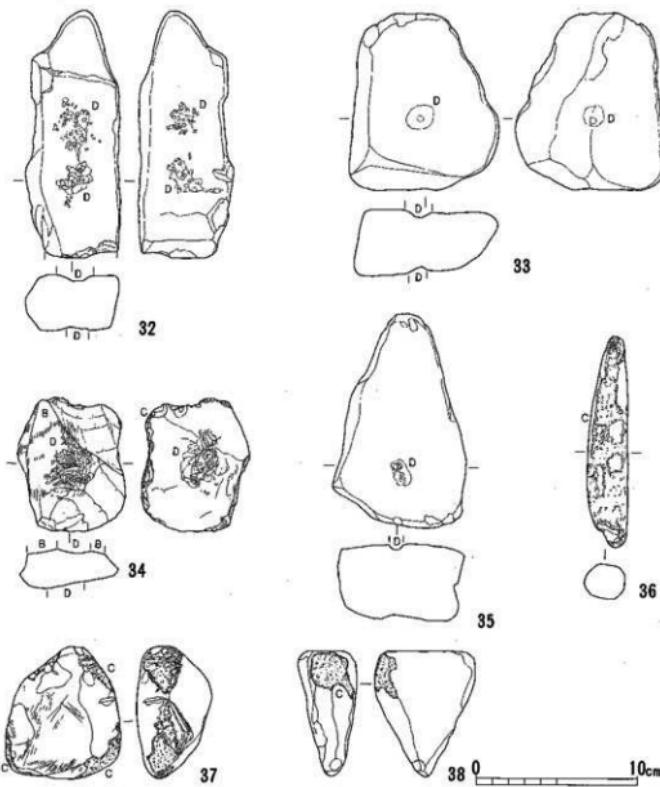
| 図版番号 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(mm) | 幅(mm) | 厚(mm) | 重(g) | 備考 |
|------|------------|-------|----|--------|-------|-------|---------|--------------------------|---|
| 14 | B5.37.14H | 打製石斧 | 縁片 | 緑片 | 155.0 | 44.0 | 21.0 | 203.1 | 乳棒状石斧からの転用か。表面敲打後擦っている。 |
| 15 | B5.86.14H | 打製石斧 | 頁 | 頁 | 54.0 | 48.0 | 17.0 | 56.5 | 側縁挫滅によるくびれ辺りで折れた後、再利用している。 |
| 16 | B4.115.14H | 打製石斧 | 頁 | 頁 | 60.0 | 43.5 | 9.5 | 36.1 | 崩側縁、丁寧な面加工 |
| 17 | B5.49.14H | 打製石斧 | 頁 | 頁 | 86.0 | 46.0 | 21.0 | 89.8 | |
| 18 | B5.43.14H | 石匙 | 頁 | 頁 | 45.0 | 67.0 | 10.0 | 30.2 | 刃部わずかに磨耗 |
| 19 | B4.97.14H | 石匙 | 頁 | 頁 | 71.0 | 71.0 | 14.0 | 61.0 | 裏面からわずかに刃部を作り出す片刃 |
| 20 | B4.59.14H | 磨製石斧 | 蛇 | (98.0) | 45.0 | 24.0 | (194.5) | 全面に整形の擦痕(表面上斜横ほぼ横、裏面横方向) | |
| 21 | C4.3.14H | 横刃形石器 | 頁 | 頁 | 78.0 | 77.0 | 23.0 | 168.9 | 刃部細かな擦打痕か。剥離不明瞭。裏面未調整 |
| 22 | C5.2.14H | 乳棒状石斧 | 頁 | 頁 | 134.0 | 62.0 | 46.0 | 597.9 | 裏面あばた状の浅い凹みが見られ、その上を磨っている。表面に軽打痕。側面削離後敲打による渦巻をし、部分的に研磨する。 |

第18図 14号住居址出土石器実測図 その2 (1:3)



| 図版番号 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(mm) | 幅(mm) | 厚(mm) | 重(g) | 備考 |
|------|------------|-----|----|----|---------|---------|--------|---------|------------------------------------|
| 23 | C5.6.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | (96.0) | (83.0) | (33.0) | (316.9) | 折れてからも使用。小さな丸い凹みが3つほど集まつており内面はなめらか |
| 24 | B5.29.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | 91.0 | (109.0) | (43.0) | (402.9) | 広く深い凹みだが内面はなめらか。表面擦痕見える |
| 25 | B5.65.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | (107.0) | 105.0 | 75.0 | (722.9) | 削だるま形で深い凹みの内面なめらか |
| 26 | B4.46.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | 96.0 | (56.0) | (49.0) | (226.8) | 凹みの内面なめらか |
| 27 | B5.53.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | 108.0 | 54.0 | 28.0 | 164.5 | 円錐状の凹み、内面なめらか |
| 28 | B4.88.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | 104.5 | 66.0 | 32.0 | 191.3 | 裏面の凹みは円錐形の削だるま形で内面なめらか |
| 29 | B5.64.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | (165.0) | 71.0 | 66.0 | (816.8) | 細かい凹みだがやや深い |
| 30 | C5.7.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | (86.0) | 74.0 | 30.0 | (197.6) | 広く深めに凹み、凹みの中は敲打痕が目立つ |
| 31 | B4.75.14Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗凝 | 90.0 | 60.0 | 39.0 | 328.3 | 裏面小さな丸い凹みが浅くあわせた状に見られる |

第19図 14号住居址出土石器実測図 その3 (1:3)



| 図版番号 | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(mm) | 幅(mm) | 厚(mm) | 重(g) | 備考 |
|------|-----------|-----|-----|----|-------|---------|-------|------|--|
| 32 | B5.53.14H | フ | 磨石類 | 田 | 粗面 | (153.0) | 58.0 | 35.0 | (447.0) 斜れてからも使用。表面の1つは丸穴で深い凹み、3つは浅いあばた状 |
| 33 | B5.15.14H | フ | 磨石類 | 田 | 粗面 | 129.0 | 92.0 | 41.0 | 538.1 両面円錐状の凹み。内面なめらか |
| 34 | B4.47.14H | フ | 磨石類 | 田 | 頁 | 82.0 | 67.0 | 20.0 | 156.6 表面、横長の凹みがあばた状に見られ、裏面は横長の深い凹み |
| 35 | B4.85.14H | フ | 磨石類 | 山 | 粗面 | 132.0 | 82.0 | 47.0 | 569.3 凹み周辺磨耗する |
| 36 | B5.42.14H | フ | 磨石類 | 鼓 | 頁 | 130.0 | 26.0 | 22.0 | 115.1 裏の上ほぼ全面敲打痕が見られる。平坦面は部分的に磨耗する |
| 37 | B4.24.14H | フ | 磨石類 | 鼓 | ch | 82.0 | 71.0 | 47.0 | 355.8 表面擦痕、裏面真ん中に平坦部がある。おにぎり形の角に細かな敲打痕あり |
| 38 | B4.94.14H | フ | 磨石類 | 鼓 | 細縫 | 77.0 | 62.0 | 36.0 | 169.6 遠三角形の左上角に敲打痕残るがやや不明瞭。表面中央凹みか? |

第20図 14号住居址出土石器実測図 その4 (1:3)

遺構 本址はB-5～7グリッドに位置し、東側と北側が調査区外に及ぶために規模や主軸方向は不明であるが、円形の住居址と思われる。壁は南壁で確認面から21cm、西壁で50cmを測る。西壁は地山を掘り込み、周溝はないが西壁下でテラス状に段がつくため、住居の建替えもしくは建直しが想定される。床は地山を叩き締めた褐色の堅い床である。

小穴は住居の西寄りに集中して5個ある。このうちP3・P5は本址に伴う柱穴と考えられる。

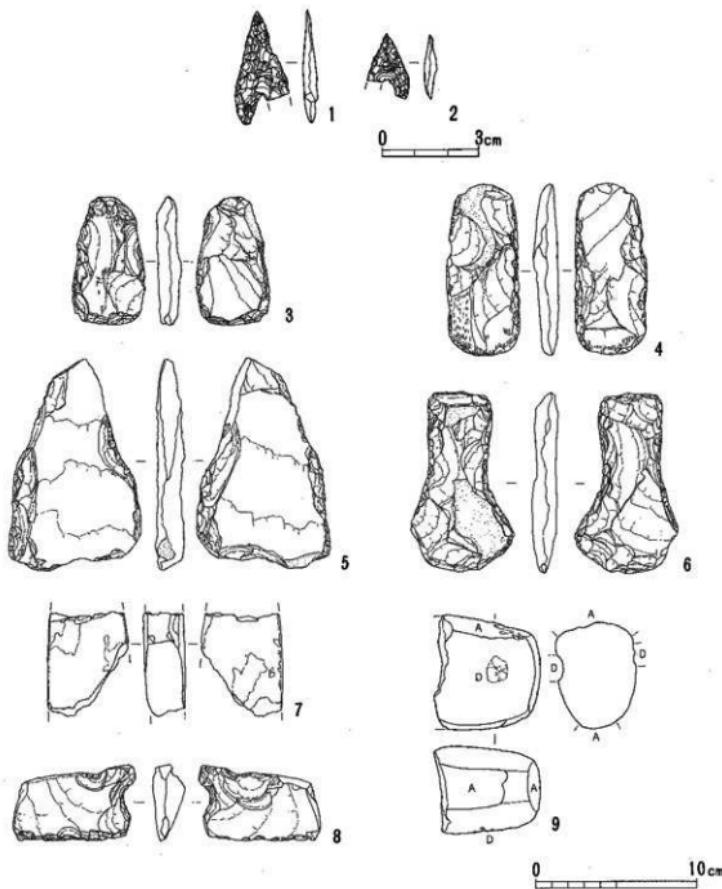
調査区東隅で炉址が発見された。炉石が抜かれてしまっているが方形石囲炉であったと思われる。この時期にしては一辺が約50cmと小型のため、調査区外にもう少し東側に伸びた長方形である可能性がある。炉の掘り込みの深さは13cmを側り、焼土は厚さ7cm、しっかりと焼き締まり火熱によりオレンジ色に変色するため、長期にわたる使用が感じられる。
(腰原)

遺物 本址からは復原可能な土器2個体が出土した(第21図)。40は住居址の床面より約50cmほどの高さから出土している。土器破片のほか、礫も重なった状態で発見されており、本址廃絶後かなり時間を経てから他の礫とともに投げ捨てられた中期後葉期の土器である。また、41は、本址北壁に近く、床面より7cmと比較的床面に近い所から出土している。40の出土した土層とは明らかに異なり、より住居址が使用されていた年代に近い遺物と思われることから、本址は縄文時代中期後葉IV期に位置づけられよう。しかし、本址覆土中床面より20cm高い位置より13住埋甕に接合する破片が出土した。このため、覆土下層より上層から古い時期の土器が出土する逆転現象が生じた。しかし、15住西壁を精査すると壁の上部に傾斜の角度が急に変化する部分があることから、15住は、埋没した13住を掘り込んで構築された後廃絶されたが、西壁が13住埋甕の際を掘り込んでいたためにその後西壁の崩落に伴って15住覆土内へ埋甕の一端が、崩れ落ちたものと推測される。

このほかに興味ある石器としては、住居の炉の北東側から床面に置かれた状態で石皿が出土しているが、完成品ではなく破損品で、いわゆるかき出し口部分の破片であった。この破断面には偏平な石が割れ口をふさぐように当てた状態で出土した。この石はあたかも床面に突き刺し固定したような様子が伺われ、石皿とともに床面におかれたまま廃棄されたことを示しているのであろうか。
(小坂)

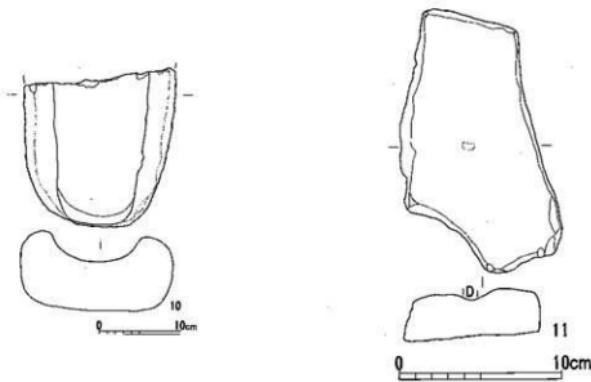


第21図 15号住居址出土土器実測図 (1:4)



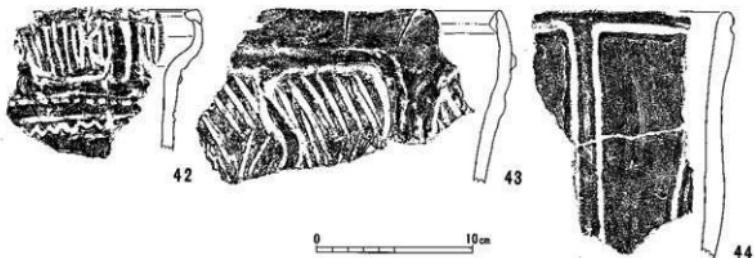
| 図版No | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(m) | 幅(m) | 厚(m) | 重(g) | 備考 |
|------|-------------|------|----|----|--------|--------|------|---------|--|
| 1 | B6.21.15H フ | 石錐 | | ob | 34.6 | (16.8) | 4.2 | (1.4) | |
| 2 | C7.3.15H フ | 右鍬 | | ob | 19.8 | 13.2 | 3.7 | (0.5) | |
| 3 | B6.16.15H フ | 打製石斧 | | 頁 | 78.4 | 45.0 | 19.8 | 62.8 | 表面に部磨耗 |
| 4 | B5.56.15H フ | 打製石斧 | | 頁 | 105.0 | 44.0 | 15.0 | 94.7 | 刃部表皮に擦痕あり、刃先わずかに磨耗。側縁説定細 かくないが整った形狀 |
| 5 | C7.8.15H フ | 打製石斧 | | 頁 | 124.0 | 81.0 | 17.2 | 207.1 | 未製作か。全体に粗い整形 |
| 6 | B6.22.15H フ | 打製石斧 | | 頁 | 111.0 | (61.0) | 16.5 | (109.3) | 複型と思われる |
| 7 | B6.27.15H フ | 磨製石斧 | | ch | (65.0) | (50.0) | 25.0 | (142.3) | 丁寧な研磨 |
| 8 | C6.9.15H ハ | 右匙 | | 頁 | 47.0 | 76.0 | 20.0 | 64.3 | 折れてからも使用。表面は深く丸い凹み。裏面浅くあ ばたけ状 |
| 9 | B6.17.15H フ | 磨石頭 | 石頭 | 粗緻 | 71.0 | (65.5) | 50.0 | (341.7) | 刃部わずかに磨耗 |

第22図 15号住居址出土石器実測図 その1 (1・2は1:1.5, 3~9は1:3)



| 図版No. | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-------|------------|-----|----|---------|-------|-------|----------|----------------------------------|-----------------|
| 10 | C7.6.15H床 | 石皿 | 粗砾 | (199.0) | 186.0 | 92.0 | (3510.0) | 3分の1欠。向みの深さ3.5cm。断面弓なりで、向み内は擦痕有る | |
| 11 | C7.19.15H床 | 磨石類 | 圓 | 粗砾 | 163.0 | 99.0 | 32.0 | 512.1 | 向み内面に小さな敲打痕見られる |

第23図 15号住居址出土石器実測図 その2 (10は1:6, 11は1:3)



| 図版No. | 遺物番号 | 器形 | 部位 | 時期 | 文様 | 内面造形 | 胎土 | 備考 |
|-------|-------------|----|----|------|--------------------|-------|-------------------|-------------------------|
| 42 | C7.4.15Hフ | 深鉢 | 口縁 | 中期後葉 | 口縁部に棒状工具による縦線沈痕充填。 | 横方向ナデ | 雲母・白色粒子少 量含む | 内面に炭化物が付 着する |
| 43 | B6.25.15Hフ下 | 深鉢 | 口縁 | 中期後葉 | 頭部に連続突起と波状沈痕 | 横方向ナデ | 1~2mmの砂粒を 多く含む | 隆帯による区画内を斜行する様で充 填する |
| 44 | C7.1.15Hフ | 深鉢 | 口縁 | 中期後葉 | 口縁と平行する沈痕が垂下し区画する | 横方向ナデ | 白色粒子少量含む | |

第24図 15号住居址出土土器拓影図 (1:3)

4. まとめ

14号住居址出土の縄文時代中期中葉土器

今回、14号住居址の調査対象となった範囲は、主に炉より西側、面積にして2分の1程度の調査であり、また東側は15号住居址に切られているにもかかわらず、覆土中より縄文時代中期中葉期のまとまった資料が出土した。ここではこれらの土器を分類し、観察することで、本址における当該期の様相を理解し、位置付け等の問題に若干ふれてみたいと思う。

(1) 出土土器の分類

分類の対象としたのは、復原して図示した土器21個体である。

第Ⅰ類 角押文が使われるなど、猪沢式土器の特徴をもつもの (23)

23の器形は、口縁に2山1単位の突起をもち、胴部は直線的である。口縁部は、突起から垂下する隆帯が区画を作る。区画の中は波状に角押文が施され、隆帯脇にも角押文が見られる。胴部は縄文のみの文様。口縁部の文様構成は、猪沢式土器に類似点が見られる。

第Ⅱ類 隆帯と沈線による文様をもつもの (24)

24の器形は、口縁部が内湾し、胴上部が張っている。文様構成は垂下する隆帯で区画をし、その中に沈線文が施される。胴部には指頭圧痕が残る。

第Ⅲ類 三角押引文が施される、新道式土器の特徴をもつもの (19)

19は類例をあまり見ない土器である。しかし、口縁部の渦巻き状のモチーフは猪沢式～新道式土器に見られ、頭部三角区画文の文様構成と、三角押引の文様要素は新道式土器との類似点がみてとれる。口縁の小波状となる形態は、藤内式土器にもあるが、波状部分から下の器形・文様には相違がある。

第Ⅳ類 区画文や抽象文などの藤内式土器の特徴をもつもの (5～18・22・25)

器形と文様の組み合わせでさらに細分される。

器形による分類

- A 口縁部がゆるやかに内湾し、胴部が反りながら底部にいたる
- B 口縁部が開き、頭部がくびれ、胴上部で膨らみをもち、底部で集約する
- C 円筒形で、口縁が平縁（口縁が波状を呈するものある）
- D 口縁部が屈折し、胴部が反りながら底部にいたる

E 鉢形

F 台付土器（註1）

G 残存部が底部付近のみ

主体となる文様の種類

1 三角形や楕円形などの区画文

2 胴部の抽象文

| 文様 | A | B | C | D | E | F | G |
|----|-----|----|----------|----|----|----|---|
| 1 | 7・8 | 17 | 14 | | 22 | | 9 |
| 2 | 10 | | 11・12・13 | | | | |
| 3 | | | (16) | | | | 5 |
| 4 | | | | 18 | | 25 | |
| 5 | | | 15 | | | | |
| 6 | | | | | | | 6 |

第2表 器形と文様の組み合わせ

- 3 波状隆帯文
- 4 パネル文
- 5 繩文
- 6 沈線、押引などの複合

第V類 波状文を口縁部に施すもの (20)

20は、4単位波状口縁を呈し、波頂部の下には刻みをもつ短い隆帯が垂下する。口縁部の文様は、半裁竹管による2本1組の波状沈線が2条巡る。こうした文様の特徴は、平出第3類A土器と同一であるが、胴部は指頭圧痕を顕著に残し、平出第3類Aの文様をもたない。指頭圧痕は、貉沢式土器・新道式土器・藤内式土器に見られるものであり、この土器は平出第3類Aと貉沢式期～藤内式期の特徴を併せもった、いわば折衷的な土器と見ることもできよう。

第VI類 区画内に斜行沈線文をもつもの (21)

21は、口縁部の突起、区画内の斜行沈線文や逆U字状の懸垂文などから、斜行沈線文を多用する土器群(1996・寺内)に分類されるであろう。口縁部文様帶の区画が一段であること、胴部の区画文が簡素となること、そして逆U字状懸垂文のありかたから、斜行沈線文土器の衰退段階(註2)ととらえられよう。

(2) 出土状況

分類を行った土器の内、第IV類～第VI類の出土状況について若干触れておきたい。これらは炉近辺、床上10cm程度のほぼ同レベルに集中して出土し、ほとんどが一括出土である。この出土状況を見る限り、住居址が少し埋没した後、一時期に時間差をおかず廃棄されたものと思われる。ただ、若干新しい文様要素をもつ18(新しい要素については後で説明をする)は、11の真上10cmほどに位置し、ほかの土器が埋没した後、廃棄された可能性も考えられる。(第25図)

(3) 第IV類土器の観察と位置付け

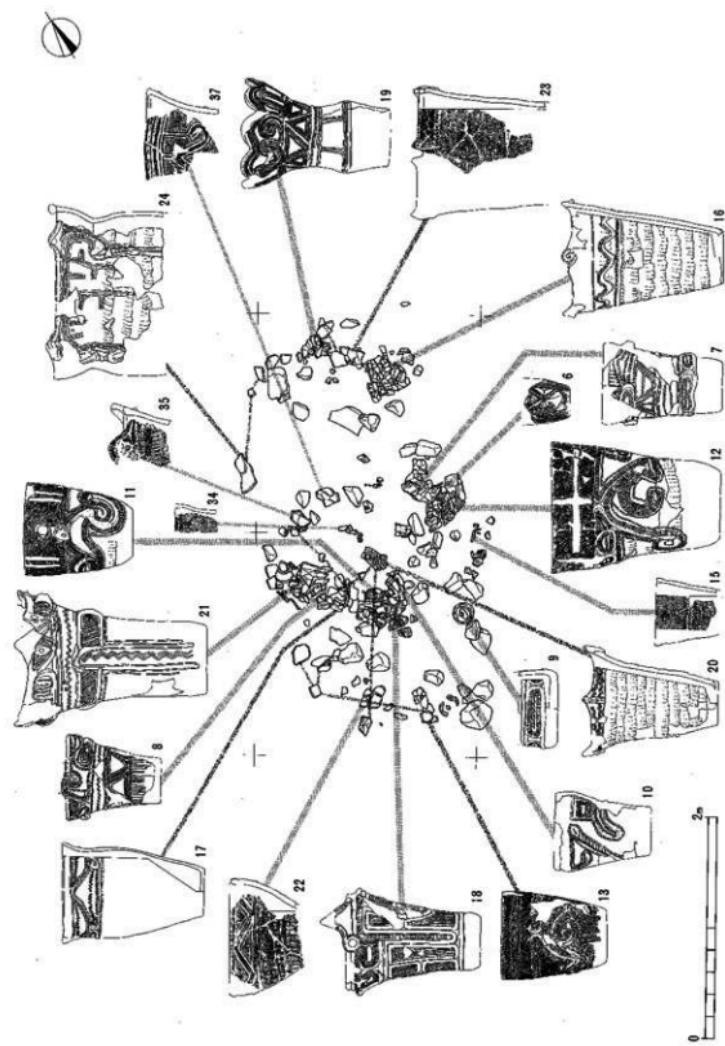
本址出土土器の内、主体を占めるのは、第IV類土器である。器形の種類と主体となる文様の組み合わせによって分類を行い、その結果を第2表に記した。

第2表から第IV類土器において特徴的な器形はC、文様は1・2であることがみてとれる。この特徴と、D4種の存在や、区画文・抽象文を作る飾帯脇に、爪形の押引文が施される点などを併せて見ると、第IV類土器は藤内I式に比定される土器群である。

これら藤内I式土器の中に、新道式土器の文様構成・文様要素を残しているものが認められる。その一つは、8・10の先が丸い押引、14・18のペン先状を呈する押引、15の三角押引など押引文の要素にあり、そして7も含めて全体的に押引の幅が狭い傾向にあることがあげられる。二つめは、抽象文の表現方法に粘土板の貼付けが用いられること(11)。三つめは、区画内を押引文で充填する文様構成をもつこと(8)。以上の3点が、新道式土器の様相を残していると考えられる要素である。

こうした古い文様要素と、新しい文様要素の差が表れる一つの例として、波状文の描き方が上げら

第25圖 14号住居址出土器物位置圖 (1 : 40)



れるだろう。新道式期までは押引で描くことが多いが、藤内式期になると沈線で表現される。14のように、区画内に押引の波状文、口縁部に沈線の波状文を施す（第26図 写真14）ということは、古い要素を残しつつ、新しい要素を取り入れていくものの一つととらえられるだろう。

このように、各所に新道式的な様相が見られるということは、第IV類土器の中に藤内I式期の中でも古い位置に置くことができるものもあると思われる。ただし、18については、文様構成や2窓状区画文内を縦沈線で充填すること、隆蒂上に斜めの刻みや交差刺突を施すなどの文様要素（第26図 写真18上段）に藤内II式的な様相が見られ、先に述べた出土状況も併せると、この中でも新しい段階に入れてもよいかもしれない。

以上を考慮に入れて本址出土土器を、第26図にまとめた。写真は、押引文・波状文を施す施文具の差異を取り上げている。

本住居址の主体を占める土器は、藤内I式に比定され、その中に新道式土器の文様要素が各所に残っていることから、藤内I式の中でも古い位置に置かれる可能性がある土器の存在のことを述べてきた。藤内I式土器が出土している岡谷市花上寺遺跡10号住居址出土の資料を見ると、パネル文・縄文施文土器が主であり、抽象文・区画文がないという様相で、本住居址とは文様のあり方に相違が見られる。これが若干の時期差によるものなのか、組成の差異によるものか確証を得ることは、現段階では困難である。岡谷市内に当該期の資料が比較的少なく、今後の課題として資料増加を待つこととする。また本来なら他地域との比較なども行い、諏訪湖盆地の土器様相について検討すべきところであるが、これも併せて今後の課題としていきたい。

（佐藤）

註1 25の復原された状態で台付土器と断定するには、十分とはいえない。しかし、口縁部分とするには、中期中葉の土器としては無文帯が広すぎること、また端部の作りが雑であることなどから、台付土器の台部と判断するに至った。

註2 寺内氏は斜行沈線文土器を、明確な段階区分の境界を設定せず、生成一発展一展開一衰退という4期の流れで説明をしている。その中で衰退期は、勝坂II式段階に比定されている。

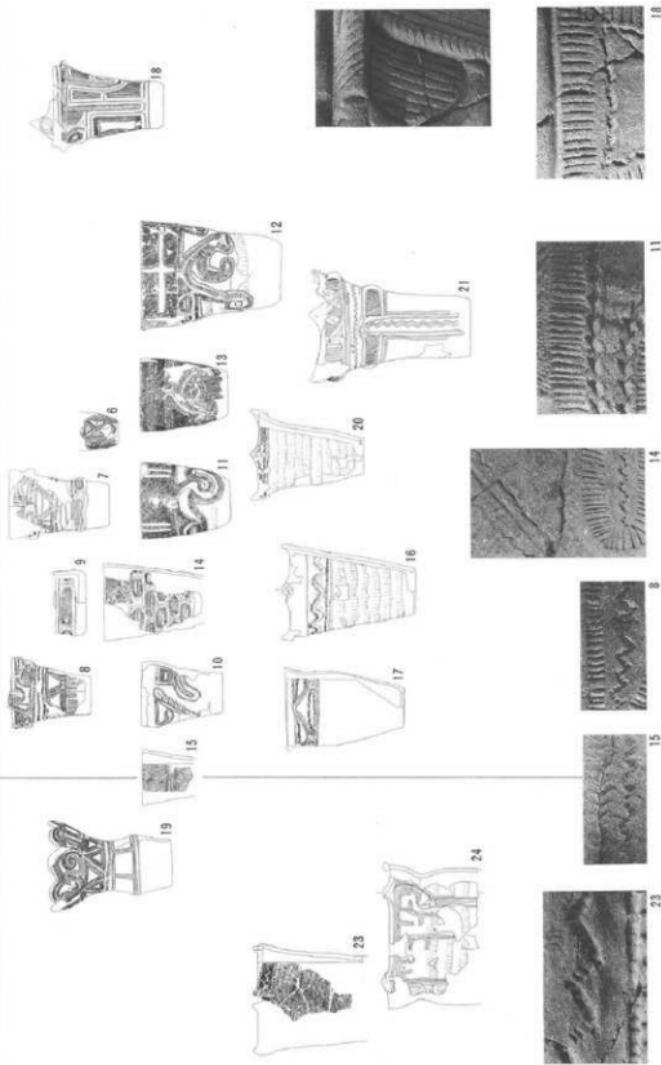
参考文献

- 1974 伴 信夫ほか 「荒神山遺跡」長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
—諏訪市内その1・その2—
- 1976 伴 信夫ほか 「大石遺跡」長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
—茅野市・原村その1、富士見町その2—
- 1986 三上徹也 「中部・西関東における縄文時代中期中葉土器の変遷と後葉土器への移行」
長野県考古学会誌51
- 1996 寺内隆夫 「斜行沈線文を多用する土器群の研究」
長野県の考古学（財）長野県埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ
- 1996 岡谷市教育委員会 「花上寺遺跡」

第 I・II・III 類(格沢・新道式併行)

第 IV・V・VI 類(藤内 1 式併行)

古 → 新



第26図 14号住居出土土器の分類

II 詳細分布調査

1. 詳細分布調査の経過と目的

広畑遺跡は縄文時代の遺跡として古くから知られ、土偶が多く出土することや、復原住居で親しまれてきた。そして、岡谷市で唯一開発の手が全く入っていなかったこともあり、遺跡の現状保存を目的として昭和47年度に詳細分布調査が行われた。その結果、縄文時代中期住居址13棟、復原可能な土器6点、しゃがんだ姿勢の小型土偶1点、石器類190点以上の遺物などが発見され大きな成果を得ることができたが、諸般の事情により、保存されないまま今日に至っている。

その後、平成2年度には、個人住宅建設に伴う発掘調査で、高尾山に近い比較的急な傾斜地にもかかわらず縄文時代中期住居址9棟が発見されたこともあります、あらためて遺跡保護のための詳細分布調査の必要性が求められてきた。このため、前回不十分であった遺跡山側の傾斜地への集落の広がりを確認し、以前行われた詳細分布調査の成果とあわせて、広畑遺跡の範囲を把握することを目的として本年度調査が実施された。

2. 調 査

(1) ト レ ン チ

高尾山尾根筋西側への集落の広がりを確認するため、天童大明神へ向かう道の両側にトレントを設定した。山側は道を作る際土を盛っており、畑作にも用いられていたため、地表から30~70cmが耕作土であり、谷側は礫や砂利の多い湿っぽい土をしている。山側から遺物が出土したため、高尾山の登山道に沿ってトレントを設定したが、遺構・遺物は発見されなかった。

尾根筋東側はマレットゴルフ場になっておりその中にトレントを設定した。土層はきれいな層序をなし地中深くまで搅乱を受けた痕跡は認められない。

権現様を祀る沢の中から土器片が採取されるため、沢の両側にトレントを設定した。権現様に向かって左側は礫が多く混入する表土の下から、水がしみ出してきた。また、右側の1・3層からは縄文時代中期から後期の土器片が非常に多く出土した。これらの土器片の観察から1層から出土したものは流れ込みの可能性が高く、3層のものは遺物包含層と考えられる。

(2) 小 堅 穴

7P E-1の薄く堆積した黒褐色土を掘り下げた時点でトレント北東隅の暗黄褐色土中に炭化

物が集中した。精査すると小竪穴が1基発見され、これを7Pとした。覆土は色調が暗く炭化物を含む。今回確認できたのは一部分だが、直径約110cm、深さ60cmと思われる。

(3) 住居址

(イ) 11号住居址

D-2の南東隅から縄文時代中期後葉のまとまりをもつ土器片が出土したため、埋甕をもつ住居を想定して北側に拡張すると、堅く締まった褐色の床と掘り込みが発見され、これを11住とした。

直径約6mの円形住居で主軸方向はN-23°-Wである。北側の床はハードローム層を掘り込み堅い叩き面をもつが、南側はソフトロームを掘り込むため軟弱であり、南へ傾斜した地形であることから、埋甕口縁部まで搅乱が及ぶ。周溝は発見された壁下全部にまわる。

小穴は10個所発見された。壁際のP1は住居内へ傾きをもつ本址の柱穴である。またP5上面に焼土がレンズ状に堆積する。住居廃絶後の焼土であるがどういう性格のものか不明である。炉は住居中央に発見され、方形石囲炉であったが炉石は抜かれている。

埋甕や出土土器から縄文時代中期後葉の住居址と考えられる。

(ロ) 12号住居址

11住を確認するためにトレンチを拡張すると、埋甕から6m北側で掘り込みを発見した。掘り進めるとこの内側にもう1つ掘り込みを発見し2棟の重複が判明した。内側の掘り込みは11住であり、外側の掘り込みを12住とした。

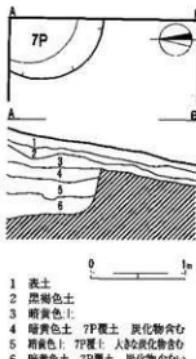
11住の壁を精査したが本址の床がはっきりと確認できないので、覆土中の炭化物が出土しなくなる面を本址の床とした。北壁は50cmあるが周溝はない。小穴は2個所発見された。壁際のP1は住居内に傾きをもつ本址の柱穴である。

ほとんどを11住に纏され、竪穴の大きさや形状を推測することは難しい。

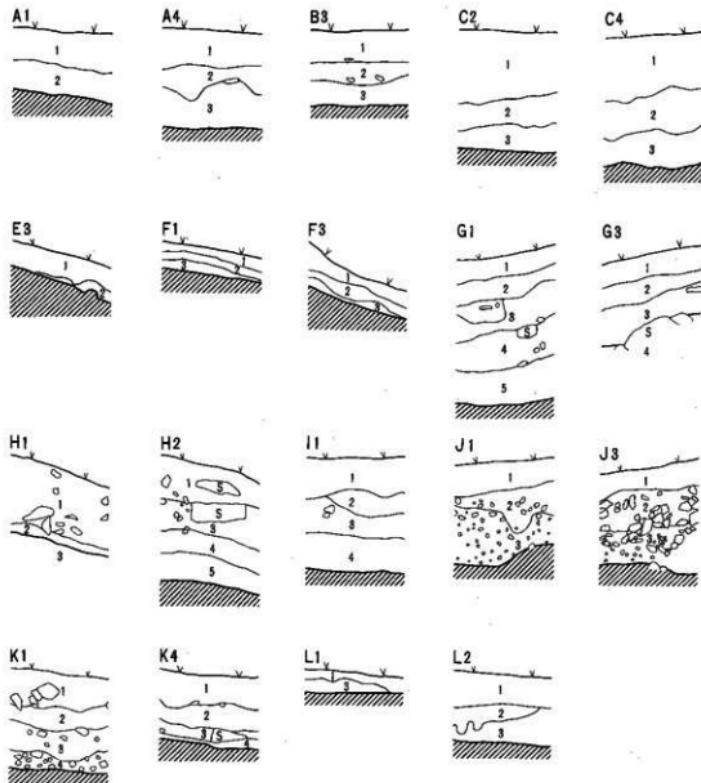
3. まとめ

昭和47年度に行われた調査では丘陵中央部から5棟の住居址が、また西端からは8棟の住居址が発見されたが、丘陵先端部周辺や地形の落ち込むところから遺構は発見されなかった。このことから集落は高尾山から緩やかに延びる丘陵の平坦面のほぼ全面に広がることが明らかとなつたが、山麓側の急傾斜地は山林であったことや、そのほかの事情により調査が行われず、どこまで集落が広がるのか確認できないままであった。

今回は前回までの調査で不十分であった山麓側への集落の広がりを確認し、遺跡の範囲を確定することを目的としてトレンチを設定した。尾根筋の東側では地山が急激に落ち込んでいるため傾斜がき



第27図 E-1,7 P平・断面図(1:50)



AT
1 表土
2 黒褐色土 白色粒子含む
3 喀褐色土 糜多い

BT
1 表土
2 喀褐色土 白色粒子含む
3 黑褐色土 小穢多

CT
1 表土
2 黑褐色土 白色・黄色粒子含む
3 喀褐色土 白色・黄色粒子含む

ET
1 表土
2 喀褐色土

FT
1 表土
2 黑褐色土
3 喀褐色土

GT
1 表土
2 黑褐色土
3 喀褐色土

HT
1 表土
2 黑褐色土
3 黑褐色土: 小穢多

5 喀褐色土: 小穢含む

IT
1 表土
2 晴褐色土
3 黑色土: 白色・黄色粒子含む
4 黑色土

JT
1 表土
2 黑褐色土
3 黑色土: 小穢多

KT
1 表土
2 喀褐色土
3 黑褐色土: 白色・黄色粒子含む
4 黑褐色土: 糜含む

LT
1 表土
2 黑褐色土
3 晴褐色土

第28図 平成12年度トレンチ土層セクション図(1:50)

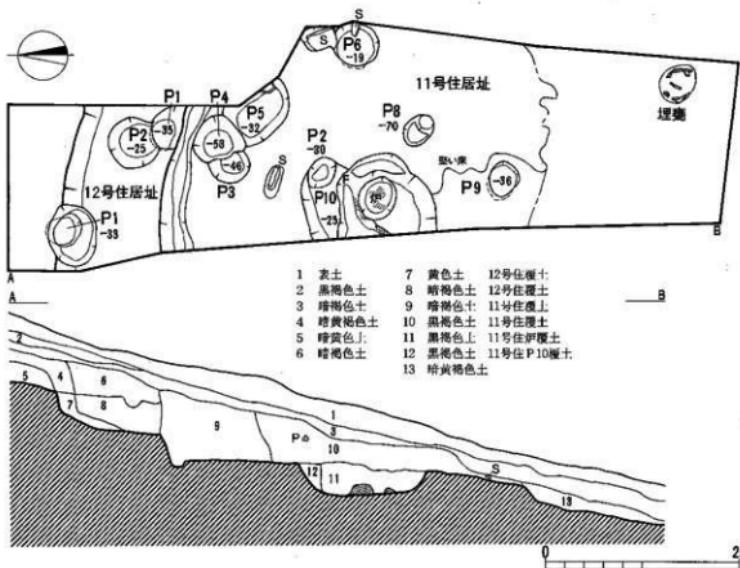
つく、また西側では天竜大明神の方から流れてくる沢があり、湿っぽい土地であることがわかった。どちらも居住には適さない土地であったためか、現段階で遺構・遺物は発見されていない。

今回の調査で遺構が発見されたのは山麓際の一段高くなっている尾根筋の先端部である。高尾山登山道沿いの鳥居より上に設定したトレントからは遺構・遺物が発見されなかつたため、集落はこの尾根の先端から下に広がっていたことが明らかとなった。

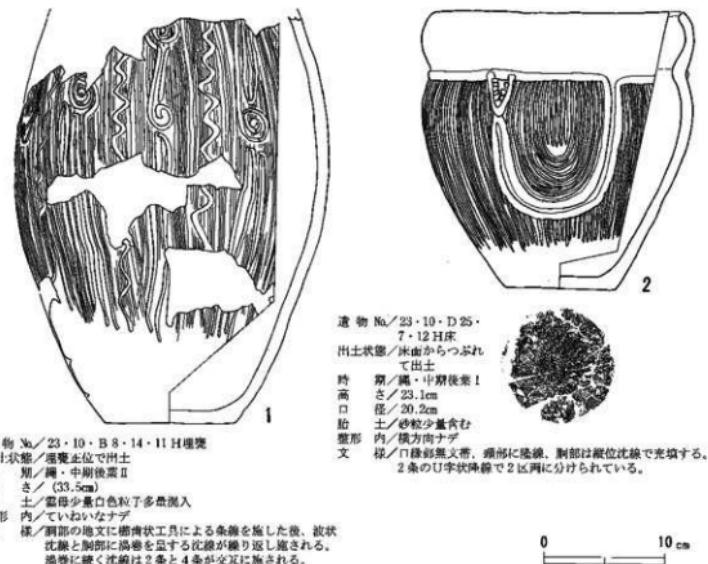
また、集落の中心から直線距離で東へ約200m離れた権現様を祀る湧水の東側から、遺構は発見されなかつたものの、縄文時代中期から後期の土器片が非常に多く出土した。これらの出土した土器と今までに発見された住居址の時期がほぼ同じであり、集落との距離が近いことから湧水付近に水場利用のための遺構の存在が考えられ、本遺跡とこの湧水とが深く結びついていることが想定される。

以上一連の分布調査によって、広畠遺跡の集落は、平坦面より一段高くなる尾根の先端部急傾斜面を北限として、高尾山から緩やかに延びる丘陵の平坦面のほぼ全面に広がり、南端は丘陵先端部周辺の落ち込む手前まで広がっていることが明らかになった。また、遺構の発見はないが権現様の祀られる湧水まで含めた範囲を集落の領域としてとらえる必要があることがわかった。およそ東西140m、南北180mの規模になる。(第32図)

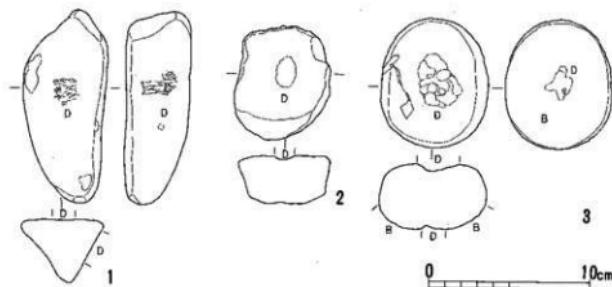
(腰原)



第29図 11・12号住居址実測図 (1:50)

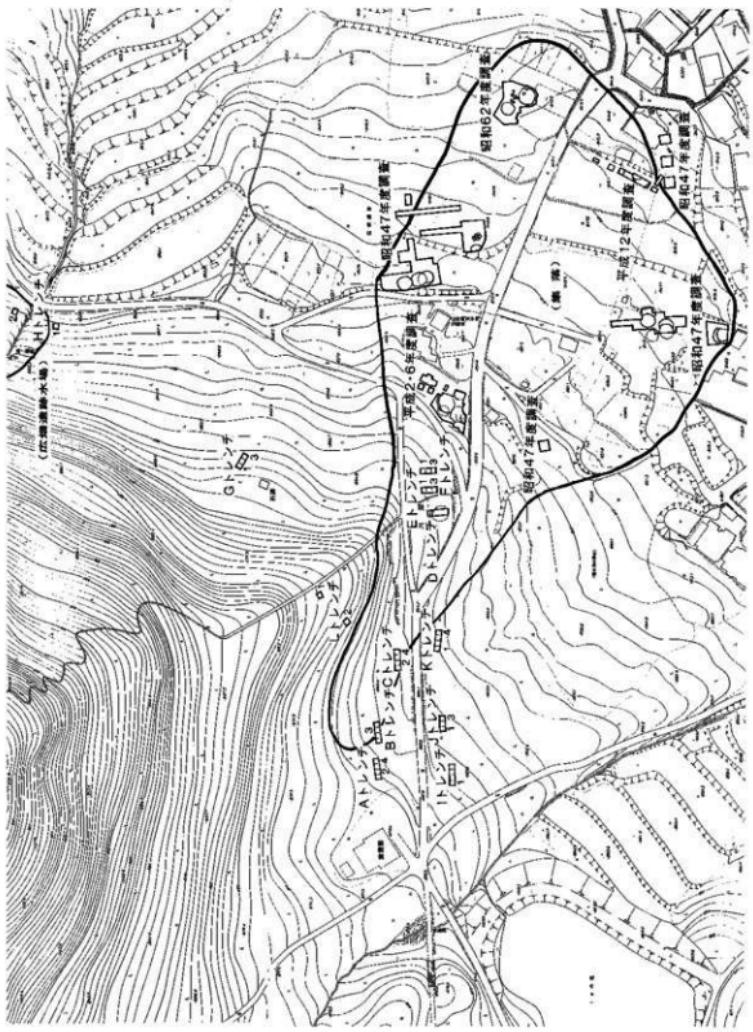


第30図 11・12号住居址出土土器実測図 (1:4)



| 図版No. | 遺物番号 | 遺物名 | 分類 | 石材 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重(g) | 備考 |
|-------|-------------|-----|----|----|-------|-------|-------|-------|------------------------------------|
| 1 | D1.9.11Hフ | 磨石類 | 円 | 細砂 | 118.0 | 52.0 | 39.0 | 274.5 | 細長く浅い凹みあばた状にある |
| 2 | D1.8.11Hフ | 磨石類 | 圓 | 粗粒 | 71.0 | 59.0 | 29.0 | 139.0 | 楕円形の深い凹み。内面はなめらか |
| 3 | D25.3.12IIフ | 磨石類 | 扇 | 粗粒 | 80.0 | 67.0 | 40.0 | 275.8 | 裏面黒色変化、深く丸い凹み。表面の凹みやや深く丸い。凹み内面あばた状 |

第31図 11・12号住居址出土石器実測図 (1:3)



第32図 広畠壇跡トレーンチの位置と遺構分布図、壊物が散布する範囲 (1 : 1,800)

付 表

1. 遺構一覧表

(1) 住居址一覧表

(イ) 発掘調査

| 住戸No | 平面形(推定) | 主 軸 | 規模(m) | 炉 | 時 期 | 備 考 |
|------|---------|---------|-------------|--------|--------|-----|
| 13 | (楕丸形) | N 38° E | (径 5.1 × ?) | 掘垣建石圓炉 | 縄・中・後葉 | |
| 14 | (円形) | - | (径 5.6) | 石田甌焼炉 | 縄・中・中葉 | |
| 15 | (円形) | - | | (石窯炉) | 縄・中・後葉 | |

(ロ) 詳細分布調査

| 住戸No | 平面形(推定) | 主 軸 | 規模(m) | 炉 | 時 期 | 備 考 |
|------|---------|-------------|---------|-------|--------|-----|
| 11 | (円形) | N - 23° - W | (径 5.9) | (石圓炉) | 縄・中・後葉 | |
| 12 | (円形) | - | | - | 縄・中・後葉 | |

(2) 小豎穴一覧表

詳細分布調査

| 小豎穴No | グリット名 | 平面形 | 断面形 | 口徑(cm) | 底径(cm) | 深さ(cm) | 時 期 | 備 考 |
|-------|-------|------|-----|--------|--------|--------|-----|-----|
| 7 | E-1 | (円形) | - | (110) | (90) | 60 | 縄 | |

2. 石器属性表

(1) 発掘調査

| 原石 回収No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 | 単位はmm,g |
|---------------|------|--------|--------|--------|--------|-------|----|---------|
| B8.16.13H.P4 | ob | | 71.9 | 29.7 | 20.0 | 30.1 | | |
| B4.89.14H フ | ob | | 47.0 | 33.3 | 7.0 | 12.2 | | |
| B5.34.14H フ | ob | | 45.9 | 25.9 | 17.6 | 18.8 | | |
| B5.95.14H フ | ob | | 43.7 | 34.3 | 6.0 | 6.5 | | |
| C5.4.14H フ | ob | (29.0) | 19.1 | 4.8 | (2.1) | 折れ | | |
| B4.127.14H 床面 | ob | | 46.1 | 44.4 | 14.9 | 19.3 | | |
| B6.5.15H フ | ob | | 31.5 | (17.5) | 9.5 | (4.7) | 折れ | |
| C7.9.15H フ | ob | (50.9) | (23.8) | 9.4 | (10.2) | 折れ | | |
| C7.16.15H フ | ob | | 42.0 | 34.3 | 8.2 | 10.7 | | |
| AT-5.コウ | ob | | 38.2 | 29.9 | 14.5 | 15.5 | 分割 | |
| ハイド.21 | ob | | 44.8 | 22.5 | 18.7 | 11.6 | | |

| 石核 回収No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 | 単位はmm,g |
|--------------|------|--------|------|------|--------|------|----|---------|
| B5.93.14H フ | ob | | 21.4 | 25.1 | 34.7 | 15.4 | | |
| B5.108.14H フ | ob | | 14.1 | 22.1 | 11.1 | 2.7 | | |
| B6.36.15H フ | ob | | 22.8 | 37.2 | 17.2 | 10.3 | | |
| C5.9.15H フ | ob | | 12.7 | 24.9 | 10.0 | 2.4 | | |
| B11.1.コウ | ob | | 37.2 | 44.5 | 17.9 | 25.9 | | |
| AT-7.コウ | ob | (58.0) | 19.2 | 16.3 | (15.7) | | | |
| ハイド.20 | ob | | 30.5 | 35.8 | 18.0 | 14.5 | | |

両橋

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|------|---------------|----|--------|------|------|-------|------|
| | B7.23.13H フ | ob | 25.6 | 28.7 | 15.5 | 12.9 | 両側石核 |
| | B7.25.13H フ | ob | 26.0 | 19.0 | 6.6 | 3.1 | |
| | B8.17.13H フ | ob | 18.3 | 12.9 | 3.4 | 0.9 | |
| | B8.18.13H.F | ob | 14.7 | 22.5 | 11.1 | 3.1 | 両側石核 |
| | B8.19.13H.F | ob | 22.2 | 8.8 | 6.0 | 0.7 | 碎片 |
| | B8.20.13H.F | ob | 13.3 | 10.0 | 4.4 | 0.5 | |
| | B3.2.14H フ | ob | 17.4 | 20.9 | 7.0 | 2.4 | |
| | B4.125.14H フ | ob | 21.3 | 13.2 | 9.8 | 2.3 | |
| | B4.126.14H フ | ob | 28.5 | 15.3 | 4.8 | 1.6 | |
| | B4.128.14H フ | ob | 18.7 | 7.3 | 7.6 | 1.0 | 碎片 |
| | B4.129.14H フ | ob | 20.4 | 11.9 | 8.7 | 1.8 | |
| | B4.130.14H フ | ob | 30.8 | 20.6 | 8.0 | 3.7 | 碎片 |
| | B4.131.14H フ | ob | 27.2 | 16.2 | 5.5 | 1.5 | 碎片 |
| | B4.132.14H フ | ob | 27.3 | 14.9 | 8.6 | 3.0 | 碎片 |
| | B4.133.14H フ | ob | 14.0 | 6.9 | 5.7 | 0.5 | 碎片 |
| | B4.134.14H フ | ob | 23.3 | 11.8 | 7.0 | 1.3 | 碎片 |
| | B5.5.14H フ | ob | 22.5 | 10.6 | 3.6 | 0.5 | 碎片 |
| | B5.33.14H フ | ob | 19.9 | 18.7 | 8.3 | 2.1 | |
| | B5.90.14H フ | ob | 22.0 | 14.2 | 6.2 | 2.1 | 碎片 |
| | B5.91.14H フ | ob | 14.6 | 11.2 | 4.9 | 0.7 | 碎片 |
| | B5.92.14H フ | ob | 28.2 | 9.2 | 5.9 | 0.7 | 碎片 |
| | B5.94.14H フ | ob | 23.6 | 13.7 | 10.2 | 2.7 | |
| | B5.97.14H フ | ob | 14.3 | 10.7 | 5.5 | 0.7 | |
| | B5.98.14H フ | ob | 31.5 | 15.8 | 5.6 | 2.2 | 碎片 |
| | B5.99.14H フ | ob | 24.1 | 13.7 | 7.2 | 2.3 | 碎片 |
| | B5.100.14H フ | ob | 16.2 | 8.5 | 4.4 | 0.6 | 碎片 |
| | B5.101.14H フ | ob | 26.0 | 13.7 | 2.9 | 1.0 | 碎片 |
| | B5.102.14H フ | ob | 26.5 | 13.8 | 5.0 | 1.4 | 碎片 |
| | B5.103.14H フ | ob | 25.4 | 9.0 | 5.2 | 1.0 | 碎片 |
| | B5.109.14H フ | ob | 18.8 | 9.6 | 3.8 | 0.6 | 碎片 |
| | B5.110.14H フ | ob | 25.8 | 11.5 | 4.9 | 1.2 | 碎片 |
| | C4.20.14H フ | ob | 35.5 | 14.7 | 11.7 | 2.8 | |
| | B4.135.14H フ下 | ob | 31.8 | 14.8 | 14.1 | 5.0 | |
| | B5.96.14H.P11 | ob | 14.5 | 9.4 | 5.6 | 0.6 | |
| | B4.101.14H.F | ob | 14.6 | 8.3 | 6.5 | 0.5 | 碎片 |
| | B6.34.15H フ | ob | 24.5 | 8.8 | 6.5 | 1.1 | 碎片 |
| | B6.35.15H フ | ob | 20.6 | 16.3 | 11.5 | 3.0 | |
| | B6.37.15H フ | ob | (14.3) | 9.5 | 3.8 | (0.6) | 碎片 |
| | B6.38.15H フ | ob | 28.2 | 9.5 | 4.5 | 0.8 | 碎片 |
| | B6.39.15H フ | ob | 24.5 | 10.9 | 7.3 | 1.5 | 碎片 |
| | B6.40.15H フ | ob | 22.4 | 10.8 | 5.5 | 1.0 | 碎片 |
| | B6.41.15H フ | ob | 19.3 | 9.5 | 6.7 | 1.1 | 碎片 |
| | C7.10.15H フ | ob | 23.7 | 22.3 | 7.5 | 3.8 | |
| | C7.11.15H フ | ob | 21.3 | 15.5 | 5.3 | 1.5 | 碎片 |
| | C7.12.15H フ | ob | 35.9 | 15.2 | 7.8 | 3.0 | 碎片 |
| | C7.17.15H フ | ob | 16.1 | 16.8 | 5.2 | 1.3 | 碎片 |
| | B5.88.P1 | ob | 24.7 | 15.0 | 8.7 | 2.9 | 碎片 |
| | AT.4.P1 | ob | 40.5 | 5.6 | 8.8 | 1.1 | 碎片 |
| | H2.3.コウ | ob | 15.8 | 11.2 | 5.2 | 0.9 | |
| | B41.7.コウ | ob | 17.7 | 9.5 | 5.7 | 1.1 | |
| | B44.3.コウ | ob | 28.2 | 9.5 | 5.0 | 1.2 | 碎片 |
| | B4.9.クロカツ | ob | 24.5 | 19.5 | 9.8 | 4.3 | |
| | B7.7.クロカツ | ob | 13.1 | 7.4 | 2.9 | 0.2 | 碎片 |
| | ハイフ.14 | ob | 14.1 | 11.0 | 7.8 | 1.0 | |
| | ハイフ.15 | ob | 27.1 | 23.2 | 12.5 | 6.8 | 両側石核 |
| | ハイフ.16 | ob | 20.2 | 18.8 | 6.0 | 0.9 | 碎片 |
| | ハイフ.22 | ob | 25.7 | 11.5 | 6.2 | 1.4 | 碎片 |

石器

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|------|-------------|----|--------|--------|-----|-------|----|
| 7-1 | B8.7.13HF | ob | 28.9 | (16.1) | 4.1 | (1.2) | |
| 17-1 | B4.14.14H フ | ob | 16.5 | 14.6 | 3.1 | (0.6) | |
| 17-2 | B6.15.14H フ | ob | 29.1 | 15.9 | 4.1 | 1.3 | |
| 17-4 | B5.77.14H フ | ob | 23.5 | 17.5 | 3.8 | (1.1) | |
| 17-3 | C4.8.14H 床面 | ob | 20.5 | 14.7 | 3.1 | (0.6) | |
| 22-1 | B6.21.15H フ | ob | 34.6 | (16.8) | 4.2 | (1.4) | |
| 22-2 | C7.3.15H フ | ob | 19.8 | 13.2 | 3.7 | (0.5) | |
| | B4.1.クロカツ | ob | (15.8) | (15.7) | 2.3 | (0.4) | |

不定形石器

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|------|---------------|----|--------|--------|------|-------|----|
| | B4.48.14H フ | ob | 20.7 | 18.3 | 3.3 | 1.7 | |
| | B4.74.14H フ | ob | 31.8 | 22.3 | 9.8 | 1.1 | |
| | B5.104.14H フ | ob | 18.9 | 13.0 | 5.6 | 1.6 | |
| | B5.105.14H フ | ob | 22.0 | 20.5 | 6.0 | 1.8 | |
| | B5.106.14II フ | ob | 17.1 | 24.1 | 5.0 | 1.8 | |
| | B5.107.14H フ | ob | 22.3 | 13.4 | 5.7 | 1.4 | |
| | B5.111.14II フ | ob | 24.9 | 13.0 | 6.8 | 1.6 | |
| | C4.21.14H フ | ob | 30.1 | 15.3 | 5.0 | 15.6 | |
| | C5.12.14H フ | ob | 56.6 | 27.3 | 8.5 | 1.7 | |
| | C6.13.15H フ | ob | (25.1) | (15.2) | 7.0 | (2.5) | |
| | C7.13.15H フ | ob | 20.2 | 20.2 | 6.0 | 2.1 | |
| | C7.14.15H フ | ob | 19.7 | 32.1 | 4.8 | 2.2 | |
| | C7.18.15H フ | ob | 25.5 | 22.6 | 6.0 | 3.0 | |
| | B4.123. クロカツ | ob | 23.6 | 9.6 | 7.6 | 1.1 | |
| | B11.8. コウ | ob | 20.7 | 13.4 | 4.5 | 1.1 | |
| | C4.22. コウ | ob | 25.5 | 33.7 | 8.9 | 5.3 | |
| | C6.12. コウ | ob | 18.0 | 10.6 | 6.2 | 1.2 | |
| | ハイド.17 | ob | 26.8 | 15.8 | 6.3 | 1.5 | |
| | ハイド.18 | ob | 28.2 | 12.7 | 4.2 | 1.4 | |
| | ハイド.19 | ob | 41.3 | 19.8 | 14.2 | 8.5 | |

石劍

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|------|-----------|----|------|------|-----|-----|----|
| | C4.23. カタ | ob | 24.7 | 12.8 | 5.5 | 1.1 | |

石盤

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|--------------|----|------|------|------|------|----|
| 18 - 19 | B4.97.14H フ | 頁 | 71.0 | 71.0 | 14.0 | 61.0 | |
| 18 - 18 | B5.43.14II フ | 頁 | 45.0 | 67.0 | 10.0 | 30.2 | |
| 22 - 9 | C6.9.15H 床 | 頁 | 47.0 | 76.0 | 20.0 | 64.3 | |

打削石斧

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|---------------|----|---------|--------|--------|---------|---------|
| 17 - 8 | B7.8.15H フ | 頁 | (161.0) | 67.0 | 30.5 | (369.6) | 打削石斧未製品 |
| 17 - 8 | B4.42.14H フ | 鱗片 | (85.0) | 52.5 | 20.0 | (128.0) | |
| 17 5 | B4.44.14H フ | 頁 | 90.0 | 45.0 | 18.0 | 76.1 | |
| 17 - 9 | B4.72.14II フ | ho | (97.0) | (45.0) | 19.0 | (116.0) | |
| 17 12 | B4.83.14H フ | 頁 | 124.0 | 59.0 | 20.0 | 190.0 | |
| 18 - 16 | B4.115.14II フ | 頁 | 60.0 | 43.5 | 9.5 | 36.1 | |
| 17 - 7 | B4.120.14H フ | 頁 | 98.0 | 42.0 | 15.0 | 77.9 | |
| 17 - 10 | B5.16.14H フ | 頁 | (107.0) | (53.0) | 26.0 | (164.1) | |
| 18 - 14 | B5.37.14H フ | 鱗片 | 155.0 | 44.0 | 21.0 | 203.1 | |
| 17 - 13 | B5.39.14H フ | 頁 | (128.0) | (48.0) | 14.0 | (80.3) | |
| 17 - 6 | B5.47.14H フ | 頁 | 93.0 | 44.0 | 19.0 | 94.9 | |
| 18 17 | B5.49.14H フ | 頁 | 86.0 | 46.0 | 21.0 | 80.8 | |
| 17 - 11 | B5.50.14II フ | 頁 | 131.0 | 62.0 | 21.0 | 198.6 | |
| 18 15 | B5.86.14H フ | 頁 | 54.0 | 48.0 | 17.0 | 56.5 | |
| 22 - 4 | B5.36.15H フ | 頁 | 165.0 | 44.0 | 15.0 | 94.7 | |
| 22 - 3 | B6.16.15H フ | 頁 | 78.4 | 45.0 | 19.8 | 62.8 | |
| 22 - 6 | B6.22.15H フ | 頁 | 111.0 | (61.0) | 16.5 | (109.3) | |
| | B6.30.15H フ | 頁 | (64.0) | (57.0) | (19.5) | (81.0) | |
| | C7.7.15H フ | 頁 | (56.0) | (51.0) | (13.0) | (35.3) | |
| 22 - 5 | C7.8.15II フ | 頁 | 124.0 | 81.0 | 17.2 | 207.1 | |
| | B4.34. コウ | 頁 | 115.0 | 53.0 | 15.0 | 112.0 | |
| | B4.35. コウ | 頁 | 109.0 | 49.0 | 14.0 | 90.9 | |
| | B4.106. コウ | 頁 | 107.0 | 66.0 | 28.0 | 200.5 | |
| | B4.106. コウ | 頁 | 88.5 | 48.0 | 13.0 | 70.2 | |
| | B4.107. コウ | 頁 | (54.0) | 40.0 | 15.5 | (38.8) | |
| | B4.108. コウ | 頁 | 80.0 | 40.5 | 20.5 | 90.4 | |
| | B4.109. コウ | 頁 | 92.5 | 44.5 | 17.0 | 100.5 | |
| | B4.111. コウ | 頁 | (95.0) | 40.5 | 25.0 | (120.7) | |
| | B4.112. コウ | 頁 | 91.5 | 50.0 | 15.5 | 87.3 | |
| | B6.32. コウ | 頁 | 101.0 | 48.5 | 18.0 | 105.8 | |
| | B6.33. コウ | 頁 | (90.0) | (55.0) | 21.5 | (139.1) | |
| | B6.42. コウ | 鱗片 | (75.5) | 49.0 | 17.0 | (75.9) | |
| | B11.4. コウ | 頁 | (72.0) | 50.0 | 20.0 | (87.7) | |
| | C4.12. カク | 頁 | (96.0) | 47.0 | 17.0 | (99.6) | |
| | C4.15. カク | 頁 | (83.0) | 51.0 | 12.0 | (65.6) | |

打製石斧

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|------|-----------|----|--------|------|------|--------|----|
| | C4.16. カク | 頁 | 117.0 | 44.0 | 16.0 | 105.8 | |
| | C4.17. カク | 頁 | (71.5) | 42.5 | 19.0 | (85.5) | |
| | C4.18. カク | 頁 | 120.9 | 58.0 | 24.0 | 168.4 | |
| | ハイ F.5 | 頁 | 104.0 | 51.0 | 10.0 | 61.2 | |
| | ハイ F.11 | 頁 | (76.0) | 53.0 | 18.0 | (83.8) | |

磨製石斧

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|--------------|----|--------|--------|------|---------|-------------------|
| 18 - 20 | B4.59.14H フ | 蛇 | (96.0) | 45.0 | 24.0 | (194.5) | |
| 22 - 7 | B6.27.15H フ下 | ch | (65.0) | (50.0) | 25.0 | (142.3) | 丁寧な研磨 |
| | B4.33. クウ | 硬砂 | 72.0 | 50.0 | 24.0 | 158.9 | 刃部欠く。側面は丸みを呈し丸ノミ状 |

横刃型石器

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|-------------|----|--------|--------|--------|--------|----|
| 18 - 21 | C4.3.14II フ | 頁 | 78.0 | 77.0 | 23.0 | 168.9 | |
| | B6.31. クウ | 頁 | 87.0 | 45.0 | 14.0 | 79.4 | |
| | A T. 5.P1 | 頁 | (44.5) | (51.0) | (12.5) | (37.2) | |

乳棒状石斧

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|------------|----|-------|------|------|-------|----|
| 18 - 22 | CS.2.14H フ | 頁 | 134.0 | 62.0 | 46.0 | 597.9 | |

磨石類

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 分類 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|--------------|----|----|---------|---------|--------|---------|----|
| 7 - 3 | B7.3.13H フ | 圓 | 粗凝 | 124.0 | (80.0) | 55.0 | (685.5) | |
| 7 - 2 | B8.3.13H フ | 石榴 | 粗凝 | (73.0) | 67.0 | 65.0 | (451.2) | |
| | B4.7.14H フ | 磨 | 中凝 | (32.0) | (42.0) | (55.0) | (103.2) | |
| 20 - 37 | B4.24.14H フ | 霞 | ch | 82.0 | 71.0 | 47.0 | 355.8 | |
| | B4.45.14H フ | 磨 | 粗凝 | (103.5) | (65.0) | (31.5) | (246.7) | |
| 19 - 26 | B4.46.14H フ | 圓 | 粗凝 | 96.0 | (56.0) | (49.0) | (226.8) | |
| 20 - 34 | B4.47.14H フ | 圓 | 頁 | 82.0 | 67.0 | 20.0 | 156.6 | |
| 20 - 31 | B4.75.14H フ | 圓 | 粗凝 | 90.0 | 60.0 | 39.0 | 328.3 | |
| 20 - 35 | B4.85.14II フ | 圓 | 粗凝 | 132.0 | 82.0 | 47.0 | 569.3 | |
| 19 - 28 | B4.88.14H フ | 圓 | 粗凝 | 104.5 | 66.0 | 32.0 | 191.3 | |
| 20 - 38 | B4.94.14H フ | 霞 | 粗凝 | 77.0 | 62.0 | 36.0 | 169.6 | |
| 20 - 33 | B5.15.14H フ | 圓 | 粗凝 | 129.0 | 92.0 | 41.0 | 538.1 | |
| 19 - 24 | B5.29.14H フ | 圓 | 粗凝 | 91.0 | (109.0) | (43.0) | (402.9) | |
| 20 - 36 | B5.42.14II フ | 霞 | 頁 | 130.0 | 26.0 | 22.0 | 116.1 | |
| 20 - 32 | B5.53.14H フ | 圓 | 粗凝 | (153.0) | 58.0 | 35.0 | (447.0) | |
| 19 - 27 | B5.63.14H フ | 圓 | 粗凝 | 108.0 | 54.0 | 28.0 | 164.5 | |
| 19 - 29 | B5.64.14H フ | 圓 | 粗凝 | (165.0) | 71.0 | 66.0 | (816.8) | |
| 19 - 25 | B5.65.14H フ | 圓 | 粗凝 | (107.0) | 105.0 | 75.0 | (722.9) | |
| 19 - 23 | C5.6.14II フ | 圓 | 粗凝 | (96.0) | (83.0) | (33.0) | (316.9) | |
| 19 - 30 | C5.7.14H フ | 圓 | 粗凝 | (86.0) | 74.0 | 30.0 | (197.6) | |
| 22 - 8 | B6.17.15H フ | 石榴 | 粗凝 | (65.5) | 71.0 | 50.0 | (341.7) | |
| 23 - 11 | C7.19.15I 床 | 圓 | 粗凝 | 163.0 | 99.0 | 32.0 | 512.1 | |
| | B4.36. クウ | 圓 | 粗凝 | 104.0 | 70.0 | 53.5 | 407.0 | |
| | B4.37. クウ | 圓 | 粗凝 | 91.5 | 73.0 | 49.0 | 423.7 | |
| | B4.38. クウ | 圓 | 粗凝 | 80.0 | 61.0 | 46.0 | 265.7 | |
| | B4.39. クウ | 磨 | 粗凝 | 98.5 | 80.0 | 53.0 | 528.3 | |
| | B7.7.3. ハイド | 圓 | 粗凝 | 100.5 | 67.5 | 78.5 | 421.0 | |
| | B7.7.4. ハイド | 圓 | 粗凝 | 90.0 | 74.0 | 37.5 | 358.2 | |
| | C6.3. カク | 圓 | 粗凝 | 86.0 | 96.5 | 45.0 | 477.1 | |
| | C6.4. カク | 圓 | 粗凝 | 93.0 | 83.0 | 52.5 | 407.1 | |
| | C6.7. カク | 圓 | 粗砂 | (143.0) | 65.0 | 54.0 | (812.7) | |

石墨

単位はmm,g

| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
|---------|------------|----|---------|---------|------|----------|-----------------------------|
| 23 - 10 | C7.6.1SH 床 | 粗凝 | (199.0) | 186.0 | 92.0 | (3510.0) | |
| | C6.6. カク | 安 | (285.0) | (153.0) | 98.0 | (4220.0) | 2分の1欠。断面浅い弓なりの凹みと思われる。凹み内磨耗 |

| 地の墨石 | | | | | | | 単位はmm,g |
|------|----------|----|-------|-------|-------|--------|---------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | BS.2.ハイド | 粗継 | 231.0 | 133.0 | 108.0 | 3460.0 | |

(2) 詳細分布調査

| 石核 | | | | | | | 単位はmm,g |
|------|-------------|----|------|------|------|------|---------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | D1.26.11IIフ | ob | 29.8 | 24.3 | 23.3 | 13.9 | 分割 |

| 両種 | | | | | | | 単位はmm,g |
|------|-------------|----|--------|--------|-----|-------|------------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | D1.19.11Hフ | ob | 21.7 | 17.0 | 6.2 | 2.2 | 鉋片 |
| | D1.22.11H.F | ob | 20.5 | 7.7 | 4.1 | 0.6 | 鉋片 |
| | D1.23.11H.F | ob | 15.6 | 18.0 | 4.4 | 1.2 | |
| | D1.24.11H.F | ob | 21.0 | 10.0 | 5.8 | 1.3 | 鉋片 |
| | D1.27.11Hフ | ob | 18.6 | 14.2 | 4.3 | 0.9 | |
| | D1.28.11Hフ | ob | (20.0) | (13.2) | 5.9 | (1.2) | 両面打抜ではない折れ |
| | D1.29.11IIフ | ob | 14.3 | 14.2 | 5.5 | 1.2 | |
| | D1.30.11Hフ | ob | 26.5 | 19.6 | 8.8 | 3.3 | 折れ後内部打抜 |
| | ハイド.3.III | ob | 18.0 | 9.3 | 7.7 | 1.4 | |
| | D25.2.12Hフ | ob | 21.1 | 18.4 | 4.3 | 1.3 | 鉋片 |
| | H2.4.表 | ob | 14.1 | 13.1 | 3.8 | 0.7 | |
| | H2.5.表 | ob | 16.7 | 13.2 | 5.6 | 1.1 | |
| | ハイド.1 | ob | 26.8 | 18.5 | 4.7 | 2.4 | |

| 不定形石器 | | | | | | | 単位はmm,g |
|-------|--------------|----|--------|------|------|--------|---------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | D1.18.1.IIIフ | ob | 32.4 | 12.6 | 6.5 | 2.8 | |
| | D1.20.1.IIフ | ob | 34.8 | 24.7 | 10.7 | 8.1 | 石核? |
| | D1.21.1.IIフ | ob | 36.5 | 33.7 | 6.8 | 8.1 | |
| | D1.25.1.IIフ | ob | 15.2 | 11.9 | 5.8 | 0.9 | |
| | D1.31.1.IIフ | ob | 22.0 | 16.7 | 7.5 | 1.5 | |
| | D1.32.1.IIフ | ob | 33.5 | 14.0 | 5.1 | 1.8 | |
| | C2.アン.1 | ob | 41.5 | 26.5 | 13.3 | 12.0 | |
| | D1.34.アン.3 | ob | (40.5) | 31.1 | 9.6 | (11.8) | |
| | H2.6.表 | ob | 21.4 | 15.0 | 8.4 | 2.2 | |
| | H1.4.アン.2 | ob | 32.0 | 14.7 | 8.5 | 2.8 | |

| 石錐 | | | | | | | 単位はmm,g |
|------|-------------|----|------|------|-----|-----|---------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | D1.17.1.IIフ | ob | 25.3 | 16.5 | 7.9 | 2.4 | |

| 打製石斧 | | | | | | | 単位はmm,g |
|------|---------|----|-------|------|------|-------|----------------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | D1.3.アン | 真 | 116.0 | 40.0 | 20.0 | 118.2 | 刃部使用による磨耗が見られる |
| | D1.5.アン | 真 | 104.0 | 47.0 | 19.0 | 74.5 | |

| 磨石類 | | | | | | | 単位はmm,g | |
|------|-------------|----|----|--------|--------|------|---------|-----------------------------|
| 図版No | 遺物番号 | 分類 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| 31-2 | D1.8.1.IIフ | 圓 | 粗継 | 71.0 | 59.0 | 29.0 | 139.0 | |
| 31-1 | D1.9.1.IIフ | 圓 | 細砂 | 118.0 | 52.0 | 39.0 | 274.5 | |
| | D1.4.アン | 菱 | 細砂 | 160.0 | 34.0 | 27.0 | 151.6 | 全面ほぼ夷皮が残り、正面と左側面に敲打痕がわざかに残る |
| 31-3 | D25.3.12IIフ | 磨 | 粗継 | 80.0 | 67.0 | 40.0 | 275.8 | |
| | D25.6.アン | 圓 | 粗継 | (79.0) | (65.0) | 52.0 | (441.7) | |
| | E3.3.アンオウ | 圓 | 粗継 | 78.0 | 67.0 | 54.0 | 328.3 | |

| 砥石 | | | | | | | 単位はmm,g |
|------|---------------|----|--------|------|------|---------|-------------------------------|
| 図版No | 遺物番号 | 石材 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重さ | 備考 |
| | 23.10.II2.3.表 | 粘 | (94.0) | 43.0 | 22.0 | (153.7) | 磨製石斧を砥石に松用。側面には磨製石斧の整形時の敲打痕残る |



11·12号住居址



14号住居址



14·15号住居址



13号住居址石堆炉



15号住居址



14号住居址遗物出土状态



14号住居址 10·11·20出土状态



炉体土器

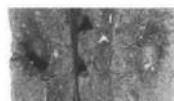
14号居住址出土土器



7断面 稷子状痕迹



11断面 稷子状痕迹



23断面 稷子状痕迹



14号住居址出土土器

14号住居址出土土器

14号住居址出土土器



14号住居址出土土器

14号住居址
出土土器

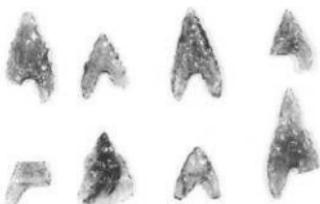
13号住居址 埋甕



15号住居址出土土器

12号住居址出土土器

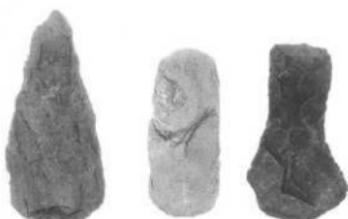
11号住居址 埋甕



石鏃



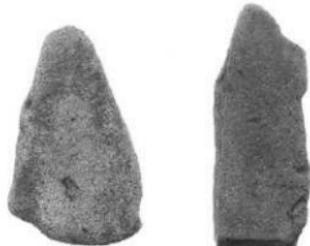
石匙



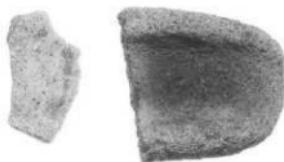
打製石斧



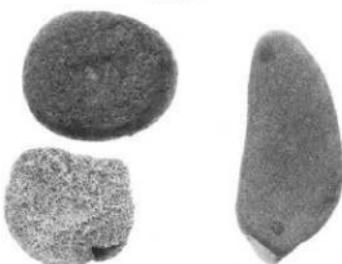
磨製石斧



磨石頭



15號住居址 石皿と凹石



詳細分布調査出土石器

報告書抄録

| ふりがな | ひろはたいせき | | | | | | |
|---------------|--|-------|------------------------|----------------------|-------------------|---------------------------|------------|
| 書名 | 広畑遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | —平成12年度広畑遺跡発掘調査及び詳細分布調査報告書— | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 郷土の文化財 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 23 | | | | | | |
| 編著者名 | 長野県岡谷市教育委員会 | | | | | | |
| 編集機関 | 長野県岡谷市教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒394-8510 長野県岡谷市幸町8-1 TEL 0266-23-4811 | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2001年3月19日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| | 市町村 遺跡番号 | | °' | °' | | | |
| 広畑 | 長野県 岡谷市 川岸 | 20204 | 23 | 36° 1' 11" | 138° 2' 54" | 20000712 ～ 20000929 | 96 分布調査 |
| 広畑 | 長野県 岡谷市 川岸 | 20204 | 23 | 36° 2' 54" | 138° 1' 24" | 20001109 ～ 20001218 | 37 個人住宅 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 広畑 | 集落 | 縄文時代 | 縄文時代住居址5棟 縄文時代小竪穴1基 | 縄文時代中期中羨 縄文時代中期後葉 | | | |

郷土の文化財 23
HIROHATA SITE

広 烟 遺 蹤

発行日 平成 13 年 3 月 19 日

編集 岡谷市教育委員会
生涯学習課分室
〒 394-0021 長野県岡谷市鶴田 2-1-52
TEL 0266(22)1020

発行 岡谷市教育委員会
〒 394-8510 長野県岡谷市幸町 8-1
TEL 0266(23)4811

印刷 株式会社 エース企画
〒 394-0011 長野県岡谷市長地 2021-1
TEL 0266(28)5411

